



**7時限 学習シート9**  
 ～体験を通して国と国とのかかわりについて考えよう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」学習シート  
**第7時限** ～体験を通して国と国とのかかわりについて考えよう～  
 学習した日 月 日、6年 組 名前

目的：与えられた材料で作ったくさりを売って、たくさんのコインを獲得しよう。

SE	A国	B国	C国	D国	E国	F国	G国	H国
枚数	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚
順位	位	位	位	位	位	位	位	位

それぞれの国は、実際には何という国に当てはまるだろうか。想像してみよう。

A国・B国	
C国・D国	
E国・F国	
G国・H国	

今日の授業を終えて… (次の時間に学習したい内容などがあれば書いてください)



**8時限 学習シート10**  
 ～開発途上国に対する日本の援助の様子を知ろう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」学習シート  
**第8時限** ～開発途上国に対する日本の援助の様子を知ろう～  
 学習した日 月 日、6年 組 名前

(貿易ゲームの結果)

A国	B国	C国	D国	E国	F国	G国	H国
4割	7割	5割	1割	3割	6割	2割	
50枚	1枚	3枚	16枚	27枚	3枚	6枚	
1位	4位	6位	3位	2位	6位	5位	

・何でもそろっていて、たくさんコインを獲得した国【OC】  
 ・何でもそろってはいなかったものの、あまり採ることができなかった国【OA】  
 ・モノはそろってはいないものの、かなり稼ぐことができた国【AO】  
 ・モノもそろっていないくて、採ることができなかった国【OA】

※上のような結果はどうして生まれてきたと考えますか。

※もし私が( )国の大統領だったら、

平をつなごうとする世界

① ② ③ ④

ビデオ「世界のみんなの笑顔のために ～国際協力と日本～」を見て、国際援助の様子を知ろう。

①「ODA (オダ) って何?	③「ユニセフ」って何?
②「JICA (ジカ) って何?	④「赤十字」って何?

今日の授業を終えて…



**9時限 学習シート11**  
 ～「外国を学んで」の意見文を書こう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」学習シート  
**第9時限** ～「外国を学んで」の意見文を書こう～  
 学習した日 月 日、6年 組 名前

あなたが行ってみたい国はどこですか？ それはどうしてですか。

これまでの「世界の人々とのつながりを広げよう」の学習を通して、  
 ①物に心を使ったこと、②外国の国に対する見方・考え方で変化したこと、  
 ③これから考えてみたい、自分が行動してみたいこと、などを中心に文章にまとめてみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

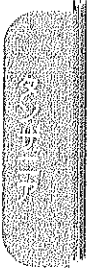
.....

.....

.....

.....

.....



### 参加動機およびプロフィール

私自身、初の海外経験。しかも、その地がアフリカ・タンザニアということで、大きな期待と不安を抱きながら、次のことを大切に参加したいと考えました。1. 自分自身を形作っていくきっかけにすること、2. 開発教育の手法を学ぶこと、3. ネットワークづくりを行うこと。

実際に参加しながら心がけていたことは、タンザニアと自分の住む地域（沖縄）とのつながりを意識したことです。その結果、自然や歴史、人々の生活など、いくつもの類似点を発見できたことは、大変興味深いことでした。

自分自身の体験をもとに、開発教育の考え方や、さまざまな手法を生かしながら、子ども達とともに考える展開を図りました。それを通して、私自身が自分づくりのきっかけにしたように、子ども達一人一人も開発途上国の現状とこれからの考えることで、自分自身と向き合う何らかのきっかけになったことを実感しています。

さらに、JICA沖縄や研修参加メンバーとのつながりを大切に、今後の実践を進めていきたいと考えています。

# 心の窓を世界に広げよう

～ベトナムを窓口にして～

山口 浩 YAMAGUCHI HIROSHI

上田市立塩尻小学校（長野県）

- 実践教科 総合的な学習の時間
- 時間数 11時間
- 対象学年 5年生
- 対象人数 28名

## カリキュラム案

### 実践の目的

心の窓を世界に広げながら共に生きる社会を考えてみよう

子ども達は世界に起きている様々な出来事を、登校前のニュースでリアルタイムで知ったり、新聞記事を持ち込んだりして学級で共有しあっている。朝の始業前の学級ではイラク戦争や、カリフォルニア森林火災、環境破壊や人権侵害、様々な出来事が子ども達の話題にあがっている。しかし技術革新に伴うこうした世界情報の氾濫は、一見子ども達の心を世界に広げているように思えるが、子ども達にとってはあくまでも他国で起きている事実知識であり、こうした問題が日本に住んでいる自分たちに密接に関係していること、さらにこうした事象に対して自分自身や自分の生活を振り返り、考える機会に乏しいことを感じる。研修で参加したベトナムを窓口

として、子ども達が五感を通して異国の文化に触れ、感じ、味わいながら、知識とともに世界に心を広げる機会となるよう、授業を計画した。

### 小学校学習指導要領

総則第3「総合的な学習の時間の取扱い」

3 各学校においては、2に示すねらいを踏まえ、例えば国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特性に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。

5-(3) 国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときには、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。

### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2時限 ベトナムってどんな国？	既存のベトナムのイメージを物からふくらませる。	・ベトナムボックス
3～5時限 ベトナムについて調べてみよう	図書館、インターネットを利用してベトナムについて調べる。	・文献資料、HP
6～8時限 世界旅行に出かけよう	自分の行きたい国への旅行計画をたてる。 (交通手段、貨幣価値、場所の選択を考慮することで様々なことを感じ、気づくようにする)	・世界地図 ・資料(観光パンフレットなど) ・模造紙
9～10時限 旅行計画を発表しよう	計画を発表しあうことで、他国への理解も深める。	

11時間

自分たちや、自分たちの国を見つめ直し  
てみよう

他国の学習を通して、自分たちと、自分た  
ちの国について見つめ直してみる。

## 授業の詳細

1~2時間

### ベトナムってどんな国？

- ①ベトナムボックス（世界地図、ベトナム地図、民  
俗衣装、帽子、民俗楽器、竹細工の水タバコ、ベ  
トナムインスタントラーメン〈子ども達全員分用  
意〉、コーヒー豆〈コーヒーをポットに用意〉、教  
科書、新聞、雑誌、現地で撮った写真）を使って、  
既存のベトナムのイメージを、ベトナムの物に触  
れながらふくらませていく。

ベトナムについて偏ったイメージを持たないよ  
うに、子ども達ができるだけ触れたり、音を出し  
てみたり、使ってみたりして試行錯誤できる物を  
用意し、触れる時間を確保した。

- ②ベトナムに対するイメージを子ども達が出し合い、学  
級におけるベトナムのイメージの共有化を図る。

子ども達のベトナムに対するイメージは必ずし  
もベトナムと関わりのあるものとは限らず、かな  
りずれているものもあったが、子ども達から疑問  
などが出ない限り全て掲示し、教師側が肯定も否  
定もしないようにした。

- ③ベトナムボックスを取り出し、中にある物からベト  
ナムに対するイメージをさらにふくらまる。また、



ベトナムのモノからイメージをふくらませる子ども達

疑問や発見、調べたいことなどをつかむ。

→竹細工の水タバコが何に使う物かが全くわから  
ず大勢の子ども達が疑問を持った。

- ④実際に味覚で味わえる物については全員で経験し  
てみる。また、必要によっては写真説明を補足し  
た。

→ベトナムのインスタントラーメンはどんな味？  
日本のインスタントラーメンとかなり違うのか  
な。食べてみよう。

→コーヒーはブラジルとかじゃないのかな。ベト  
ナムのコーヒーは初めて聞いた。どんな味がす  
るのか飲んでみよう。

3~5時間

### ベトナムについて調べてみよう

ベトナムについてさらに調べたいことを図書館の  
本やインターネットなどで調べ、調べた内容ごとに  
グループもしくは個人で発表した。

〈子ども達が調べたこと〉

- a. 民俗衣装（ベトナムの気候と関連づけて）
- b. 食生活について
- c. 音楽について
- d. 小学校の様子

主に子ども達は図書館などからの文献資料と、  
インターネットの検索から必要な知識や資料を集  
めていた。「d. 小学校の様子」を調べた子ども達が  
苦勞をしていたため、研修で訪問した学校の写真  
や資料等を提供するなど、教師もある程度の支援  
をした。

子ども達はベトナムが思っていたより日本に近い  
場所にあることや、民俗衣装や音楽からベトナムが  
たくさんの民族で構成されていることに気づいてい  
た。また、自分たちと同じように米を主食にしてい  
る民族もあること、木造の住居に住んでいること等、  
文化的に似ている点が数多くあることに気づいてい  
た。また発表には含まれなかったが、どのグループ

の子ども達からもベトナム戦争の話題があがっていた。まだ第2次世界大戦を社会科の歴史学習で学んでいない子ども達だったが、ベトナム戦争の悲惨さを写真などで見ながら、戦争そのものの意味やイラク戦争でも同じような悲劇が繰り返されていたのではないかなど、子ども達なりに感じるものが多い調べ学習になった。

### 6~8時限

#### 世界旅行にでかけよう

1. 世界地図を広げて、自分の行きたい国を選ぶ。
2. 自分の行きたい国に関する観光パンフレットや観光ガイドブックを集め、夏休みにでかけることを想定して旅行計画を立てる。
3. 単なる空想論や現実感のないものにならないように、日程や乗り物、全体の行程、訪れたい場所の選択、交通手段、宿泊場所、旅行代金など、できるだけこまかく計画を立て、模造紙にまとめる。なお調べられない、不明な部分については教師が配慮する。

### 9~10時限

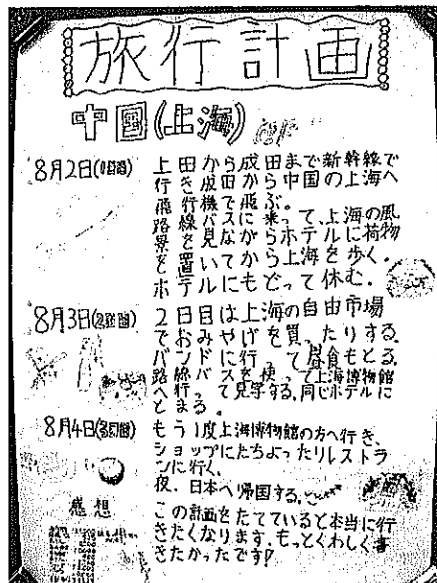
#### 旅行計画を発表しよう

同じ国を選んだ子ども達はグループでまとめ、全部で19カ国の旅行計画の発表になった。子ども達は自分の行きたい国の旅行計画を意欲的に細かく調べて綿密な計画を立て、発表した。他の友だちの旅行計画を聞くことで、他国の理解も共有しあい、貨幣価値の差や食生活の違い、公共交通機関の整備状況の差等から様々なことを感じ、驚き、興味を深めていた。当初は発表に2時間かける予定であったが、授業時間だけでは発表を終えることができず、始業前や放課後のホームルームの時間も追加した。

### 11時限

#### 自分たちや、自分たちの国を見つめ直してみよう

学習のまとめとして、ベトナムや旅行計画を立てた他国についての学習をふり返り、自分たちや、自分たちの国を改めて見つめ直してみた。多くの子



も達は「日本は豊かな国」「平和な国」「公共交通機関が充実している」などの長所をあげた。一方では、「贅沢をしている」「物価が高い」「自然が壊されている」などの短所をあげた発言もあった。また「毎日余り物が学校からたくさん出ている」との意見を受け、「材料の多くは外国からの輸入」「他の国では食べ物がないで死んでいる子ども達もいる」「ユニセフなどの共同募金活動もしているよ」「赤い羽共同募金も」など活発に意見がでた。

子ども達の意見をまとめるのではなく、お互いの考えを出し合い、深める1時間になった。

## 成果と課題

子ども達は教師が思っていた以上に異文化に興味関心を持ち、意欲的に調べ、まとめることができた。今回の実践で5年生が作った旅行計画は、他の学年の子ども達も興味関心を持って見ていた。またベトナムボックスを学校の共有スペースである多目的広場に授業後に展示したところ、全校の子ども達が興味を持ち、手にして見ていた。教員研修では今回の実践の取り組みレポートなどを発表し、まわりの先生方に興味を持っていただくことができた。

子ども達はベトナムを窓口にも、五感を通して異国の文化に触れ、感じ、味わい、さらに調べ学習を通

して世界に心を広げたとと思うが、捉え方は限定的で、偏ったところもまだ多いと感じる。こうした学習を機会あるごとに継続して積み重ねていくことで、よ

り広い視野で世界に心を広げ、自分自身や自分の国を見つめ直していける子ども達を育てていけるような実践につなげ、深めていきたいと感じた。



#### 参加動機およびプロフィール

専門教科は社会科ですが、主に総合的な学習の時間における国際理解教育をこれまで担当してきました。小学校で英語教育活動に全校体制で取り組んでいますが、この研修で自分自身の視野を広げるとともに、子ども達が日本以外の地域や文化に興味関心を持ち、他国のことを少しでも自分自身の生活と関わらせながら考えられる国際理解学習。さらにそれが子ども達が英語教育活動を主体的に取り組む動機になる、そんな実践につなげられるようなきっかけをなにか得たいと思い教師海外研修に参加しました。

# 知ろう世界の友だち 交わろうベトナムの友だち

～平和の絵をカレンダーにして、ベトナムへ平和のメッセージを贈ろう～

大月正雄 OTSUKI MASAO

愛知郡湖東町立湖東第二小学校（滋賀県）

●実践教科 総合的な学習の時間

●時間数 35時間

●対象学年 3年生

●対象人数 20名

## カリキュラム案

### 実践の目的

今回紹介する実践は、ベトナムの方たちとの交流をテーマとして、2つのことをめざしました。

一つ目に、Unicefの資料を活用し、世界の学校に行けない子ども達のことや、5歳未満で亡くなる子ども達のことを学習しつつ、日本の子ども達が、自分の生活をベトナムの子ども達の生活と比べてより客観的に捉え直すことができるようになることをめざしました。あまり難しいことをねらうわけではなく、日本に住んでいて当たり前になっている事柄が、本当はそうではなかったんだ、と気づくことを大切にしました。たとえば、日本の子ども達は毎日当たり前のように学校に通っていますが、それが当たり前なことではないというような事に気づくことを大切に

しました。また、同世代でありながら、強い希望を持って困難な毎日を生き抜いている姿に接することで、自分の生活の中で何が大切かを問い直す子どもが出てくれば、大変意味あることと思います。

二つ目は平和の大切さについて共に考えることです。ベトナム戦争（アメリカ戦争）は、未だに過去の戦争ではありません。大量破壊兵器の一つである化学兵器の「枯葉剤」などの傷跡が、今もこの国には残っているという事実にとどまらず、ベトナム戦争と同じく新植民地主義者による侵略戦争が今も繰り返されているという意味で、ベトナム戦争は過去の戦争ではないと言えます。日本では戦争体験はかなり風化しつつありますが、ベトナムでは今も生きています。平和について考えさせられる題材をいっぱい発掘することができることでしょ

### 授業の構成

時間・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限</b> ベトナムからお客さんが来るよ	・ベトナムはどこ？ ・ベトナムの人々はどんな顔をしているの？ ・ベトナムの物品。	・世界地図 ・現地の写真 ・「ドラえもん」ベトナム語 ・紙幣 ・竹琴
<b>2時限</b> ベトナムの算数の教科書で勉強しよう	・足し算・引き算・かけ算・ベトナム式割り算に挑戦しよう。	・ベトナムの算数教科書のコピー
<b>3～4時限</b> ベトナム語でお迎えをする練習をしよう	・挨拶をしてみよう。 ・自分のことをベトナム語で書いてみよう。 ・ディエンビエン小学校のことを知ろう。	・ディエンビエン小学校の写真
<b>5～6時限</b> お客さんを迎える準備を始めよう	・絵はがき作りを始めよう。 ・7～8時限に来ていただくBaさん、Lanさんに聞きたいことをメモしておこう。	・絵はがきの材料

時間・テーマ(日)	方法・内容	使用教材
7~8時間 BaさんLanさんとお話をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナムの言葉を教えてもらおう(自己紹介)。</li> <li>ベトナムのことを訪ねてみよう。</li> <li>フォーを食べてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォー(即席めん)</li> </ul>
9~12時間 ベトナムからのお客さんをお迎えしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語で簡単な挨拶と自己紹介ができるようにする。</li> <li>ベトナム語を使って絵はがきを作る。</li> <li>千羽鶴を作る。</li> <li>学級と班で歓迎の出し物を練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵はがき</li> <li>ビデオレター</li> <li>千羽鶴</li> </ul>
15~16時間 「ユニセフと地球のともだち」を見よう	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育と児童労働の箇所を中心に見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ「ユニセフと地球のともだち」</li> </ul>
17~21時間 学校に行けない子供たちについて知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図シートを使って色分けをする。</li> <li>地図を見て分かることを話し合う。</li> <li>アクティビティ:文字や数字を使わずに伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図シート(ユニセフワークブックより)</li> </ul>
22時間 アフリカが面白いわけ ~アフリカの歴史を知ろう~	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフリカの歴史地図を見て、かつて植民地であったことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフリカの歴史地図(高等学校参考書)</li> <li>「ユニセフと地球のともだち」</li> </ul>
25~26時間 5歳の誕生日をおぼえていますか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図シートを使って色分けをする。</li> <li>地図を見て分かることを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図シート</li> </ul>
26~27時間 病気がかからないために	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図シートを使って色分けをする。</li> <li>地図を見て分かることを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界地図シート</li> </ul>
28~30時間 Nem作りに取り組みよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋祭りに向けて、Baさんといっしょにベトナム料理のNem(揚げ春巻き)の店の準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Nemの材料</li> </ul>
31~35時間 平和の絵をベトナムに送ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「戦争と平和」を題材とした物語や、ベトナムのドクちゃんの話などを読む。</li> <li>「戦争と平和」をテーマに絵を描き、カレンダーにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カレンダー製作の材料(用紙、文房具など)</li> </ul>

## 授業の詳細

※授業の詳細は、ベトナムとの交流を扱った時間について掲載しました。

### 1時間

#### ベトナムからお客さんが来るよ

ベトナムをテーマとして学習する以前から、担任の先生が世界の7大陸に棲むそれぞれの生き物をテ

ーマとしてグループ学習を始めていました。ベトナムの学習を始めるに当たっては、ベトナムからお客さんが来ることを伝えた後、7大陸の学習で子ども達が持っていた世界地図を使って、まずベトナムの場所を探すことから始めました。次にベトナムの人々は、どのような顔つきをしているのかと尋ねたのですが、わからない子がたくさんいました。筆者が2月にベトナム行った時に撮った写真を提示して、日本人とよく似た顔つきをしていることを説明しました。



次に、ベトナムから持ち帰ったドラえもんの本を提示しました。ベトナム語の文字を知ることになりますが、3年生ではまだローマ字は習っていません。しかし塾で英語を勉強しているある子が、「英語だ」と言ったのが印象的でした。

その他に、ベトナムの紙幣や竹で作った木琴などを用意し、実際に触れ、音を出して学習を終えました。



ベトナム語のドラえもん



「どんな顔をしているのかな？」と問いかけた時に提示した写真の一つ

## 2時限

### ベトナムの算数の教科書で勉強しよう

ベトナムで実際に使っている3年生の算数の教科書の足し算・引き算・割り算のページからそれぞれ1ページずつ印刷して用意し、問題にチャレンジしました。もちろん文字は読めませんから、文章題の

箇所は本来できないはずなのですが、それぞれのページが四則計算のどれを使うページなのかがわかるので、数字の部分を見て立式して計算をしていました。

**THỜI 24. LUYỆN TẬP**

**1. Tính nhẩm :**

a)  $6 \times 6 = \dots$      $6 \times 9 = \dots$      $6 \times 7 = \dots$      $6 \times 6 = \dots$   
 $36 : 6 = \dots$      $54 : 6 = \dots$      $42 : 6 = \dots$      $48 : 6 = \dots$

b)  $24 : 6 = \dots$      $48 : 6 = \dots$      $25 : 6 = \dots$      $18 : 6 = \dots$   
 $12 : 6 = \dots$      $16 : 2 = \dots$      $39 : 6 = \dots$      $15 : 5 = \dots$   
 $42 : 6 = \dots$      $24 : 3 = \dots$      $15 : 3 = \dots$      $12 : 4 = \dots$

**2. Tính (theo mẫu):**

$\begin{array}{r} 24 \\ 6 \\ \hline 0 \end{array}$	$\begin{array}{r} 18 \\ 6 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 39 \\ 5 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 42 \\ 6 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 20 \\ 4 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 24 \\ 4 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 12 \\ 2 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 18 \\ 3 \\ \hline \end{array}$

**3. Có 10 m vải may được 5 bộ quần áo. Hỏi may mỗi bộ quần áo hết mấy mét vải?**  
 Bài giải

.....  
 .....

**4. Tô màu  $\frac{1}{6}$  số ô vuông của mỗi hình :**

a) 

--	--	--	--	--	--

      b) 


割算は、四則計算の中でも日本との違いが一番はっきりしている

## 3~4時限

### ベトナム語でお迎えする練習をしよう

3時限はベトナム語であいさつをする学習をしました。あいさつ言葉は次のとおりです。

Xin chào. (シン チャオ)

こんにちは。おはようございます。こんばんは。

Tôi tên là ○○. (トイ テン ラー ○○)

私の名前は○○です。

Tôi ○ tuổi. (トイ ○ トゥオイ)

私は○さいです

8 tám (ターム) 8または chín (チン) 9

Hân hạnh. (ハン ハイ)

どうぞよろしく。

以上の4つの文を暗唱しました。たったの1時間ではありましたが、大部分の子ども達が言えるようになりました。

4時限はベトナム文字でこの4つの文を書く練習

をしました。後半には、ディエンビエン小学校を写真で紹介しました。

### 5~6時限

#### お客さんを迎える準備を始めよう

日本・ベトナム友好協会大阪府連合会の国交樹立30周年事業のひとつとしてディエンビエン第二小学校からの教員招聘事業があり、教員の方々が来校することになっていました。このベトナムからのお客さんを迎えるために、5時限は、ディエンビエン第二小学校からの「お客さんを迎える準備を始めよう」という学習に入りました。準備するものとしては、一人ひとりが作成する絵はがき、千羽鶴、ビデオレター、学級と班の歓迎のだしものにしました。このうち絵はがきを5時限で作りはじめました。市販の絵はがきに折紙の作品と顔写真を貼り、3時限・4時限で学習したあいさつを書き込みます。

実際にこの1時間ですでたのは、全員の顔写真の撮影と、ほとんどの子の場合、折紙で作品を作って絵はがきに貼り付けるところまででした。

6時限は、次の時間にベトナム人留学生のBaさん、Lanさん（滋賀大学大学院在籍）に来ていただくことになっていましたので、ベトナムのことについて質問したいことを考える時間としました。

### 7~8時限

#### BaさんLanさんとお話しよう

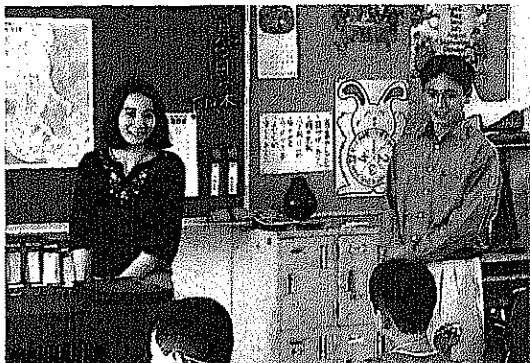
本時は、子ども達にとって初めてベトナムの方と出会う時間となりました。Baさん、Lanさんを「シンチャオ」でお迎えして、子ども達一人ひとりが順番に立って、練習をしてきたようにあいさつをしました。

全員の自己紹介が終わると、BaさんとLanさんからベトナムについてお話がありました。その後で、子ども達が用意していた質問をしていきました。そのときに、アオザイの写真やベトナム料理の写真を配布したり、即席麺のフォーの封を切って、米の麺を実際に見たりしました。

8時限の後半になって、その即席麺のフォーを調理室で作って試食しました。子ども達にはこの試食



一人一人がベトナム語で自己紹介をしました



右がBaさん、左がLanさん  
ベトナムについてお話をしていただきました



班で1食分のフォーを試食しました

は大変好評でした。

#### 子ども達の感想

今日、バーさんとランさんが来られました。最初、「シンチャオ」と言って迎えました。それから自己紹介をしました。

次にベトナムの食べ物を教えてもらいました。フォーと生春巻きです。フォーの中にはやさいや牛肉が入っています。生春巻きの中には、エビやニラなどが入

っています。生春巻きの包んでいるのは、米の紙だそうです。わたしは1回テレビでお米の紙を作っているところを見たことがあります。

こどもの日が6月1日だと知ってびっくりしました。そしてもっとびっくりしたのは、同じベトナム人なのに、山の上に住んでいる人は、言葉や服そうが全くちがうということです。また、ベトナムの国の形が、Sがたとは全く気がつかありませんでした。

最後にフォーを作って食べました。麺がすっごく平べったかったです。スープがとってもおいしかったです。

最後に「カムオン（ありがとう）、シンタムビエツ（さようなら）」と言ってわれました。

M.W

### 9～14時限

## ベトナムからのお客さんをお迎えしよう

9～12時限は、「お客さんを迎える準備をしよう」という時間に当てました。5時限のところで述べたように、絵はがき、千羽鶴、ビデオレター、学級と班の歓迎のだしもの準備です。千羽鶴は鶴をできるだけたくさん折って「Hòa Bìnhホアビン（平和）」と書いた紙にツルの写真も貼って完成させました。ビデオレターは、学校の日常の様子と、一人ひとりのベトナム語での自己紹介と、事後になります。ベトナムからのお客さんとの交流の際の録画を加えて作成しました。学級と班の歓迎のだしものはリコーダーによる演奏で、担任の先生が音楽の時間などに練習を受け持ってくれました。学級のだしものは「すなはま」の演奏でした。

当日、13～14時限は、ディエンビエン小学校の先生方に午前中に2時間、3年生の教室にゲストティーチャーとして入っていただきました。給食を子ども達と会食して、午後からはクラブ活動を見学していただきました。また、放課後に教職員との交流会を持ちました。

授業の2時間は、子ども達がベトナム語であいさつをし、お客さんからディエンビエン第二小学校のお話を聞き、子ども達がベトナムについて質問をし、学級と班からの歓迎のだしものをしてプレゼントを渡す、というプログラムでした。

### ディエンビエン第二小学校教員視察団

- ・ディエンビエン第二小学校長  
グエン・ティ・テ氏
- ・ディエンビエン第二小学校副校長  
グエン・ヴァン・トゥアン氏
- ・タインホア省ベトナム日本友好協会副会長  
レ・ヴァン・フン氏

### 子ども達の感想

今日ベトナムからお客様が3人来ました。教室に入ってきやった時に、「シンチャオ」と言いました。そしたら「こんにちは」と言ってくれました。一人ずつこしょうかいがありました。わたしの番が来たので、「シンチャオ。トイデンラーユキ。トイタームトオウイ。ハンハイン。」と言いました。

それから、しつ問をいっぱい言いました。H.Mくんが、「先生は何人いますか。」と言いました。そしたら、Baさんがテ先生に言って、テ先生がBaさんに言って、Baさんが「先生は全員で42人」と言いました。

最後にプレゼントを渡しました。わたしとJくんで絵はがきをわたし、MちゃんとHくんで千羽鶴をわたしました。わたしは絵はがきをわたす時、Jくんといっしょに、「これは、絵はがきです。絵はがきの中におりがみをはりました。そして、ベトナム語でも書きました。どうぞ受け取ってください。」と言いました。

最後にしゃしんをとって、さよならをしました。楽しかったです。また会いたいです。

N.Y



ベトナムからのお客さん、右からフン副会長、トゥアン副校長、テ校長

28~30時限

## Nem作りに取り組みよう

10月の中ごろから、Nemの店作りを始めました。Nemというのは、ベトナムの揚げ春巻きのことです。11月1日のワールドフェスティバルでNemのお店を出すことになり、BaさんとLanさんに作り方を教えてもらい、できたNemの試食をしました。

ワールドフェスティバル前日に、子ども達と担任と筆者とで、300巻程のNemを作りました。

ワールドフェスティバル当日は、再びBaさんに来ていただき、付けタレを作っていただきました。また、保護者にも応援に来ていただき、油で揚げていただきました。

### ■ 子ども達の感想

『おいしい、バリ』

きょう、ランさんパーさんが第二小学校にやってきました。5時間目、6時間目にネムを作りました。ネムは春まきをあげたものです。まず、さいしょざいりょうをベトナム語で言いました。それから、ざいりょうをきざんだりしました。3ばんは、もやしとキクラゲをきざみました。キクラゲは、はじめてさわったのですごくふにゃふにゃしていたよ。そして、ぐをまく時、すごくいいにおいがしてよかったです。みんなまくのがじょうずにできました。そして、それをあげました。ネムをつけるタレを作る時、レモンをまぜる時、すっぱそうなおいでしたよ。

大月先生が食べ方を教えるために食べたしゅん間、

「バリ」

と音がしました。そして、自分も食べると、

「バリ」

といったよ。

今日はいいれん習になったよ。ネムがとってもおいしかったよ。

K.M

31~35時限

## 平和の絵をベトナムに送ろう

11月の下旬からは、子どもが描く戦争と平和の絵をベトナムに届ける取り組みを始めました。平和の

絵の取り組みは、子ども達が描いた絵でカレンダーを作り、12月に筆者が再度ベトナムを訪問する際に各訪問先にお土産としてプレゼントしようという取り組みです。

12月の訪問では、ホーチミン市の戦争証跡博物館の見学の後、平和の絵をお渡ししました。その際、平和の絵を博物館に展示すると約束して下さいました。また、ホーチミン市のツーズー病院平和村、ハノイのタインスアン平和村に平和カレンダーと支援金をお渡ししました。ディエンビエン第二小学校とディエンビエン中学校では、平和カレンダーをお渡しするとともに、両学校で1時間の日本理解の授業をさせていただき、子ども達と授業を通して直に交流することができました。

## 成果と課題

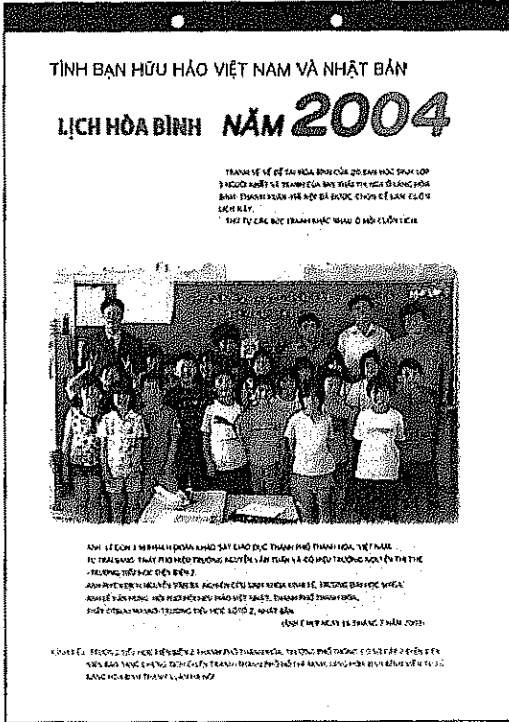
この1年間でベトナムを三度訪れる機会を得て、ベトナムについて多くを知ることができましたし、ベトナムの友人もたくさんできました。また、それとともにまわりの方々の協力を得て、子ども達とベトナムについての学習を進めることができました。3学期を迎え、ベトナムの枯葉剤による障害者の学習をした後、2月からは、この1年間の総合学習の時間に勉強したことをまとめる学習をしています。ユニセフの資料から学んだことも含めて、デジタル化した資料を使って、各自がプレゼンテーションにまとめています。

今後のベトナムとの交流学習としては、両国の子ども達同士が直接触れ合う機会を持ちたいと考えています。具体的には、2005年の6月から7月にかけて、ディエンビエン第二小学校の子ども達を日本に招待することを考えています。また、それに先立って、今年(2004年)の12月にもディエンビエン第二小学校などで、訪越友好訪問団による「友好授業」を計画しています。なお、これらはいずれも、日本ベトナム友好協会の協力の下で計画が進行しているものです。今後の国際理解教育を進める上で、このような国際友好団体と連携することも有効な選択肢の一つとなると思います。

ベトナムをテーマとした学習が、より良い学びの  
世界に発展していけるよう、今後とも努めていき  
いと考えています。



31~35時限 子ども達の描いた平和の絵で作ったカレンダー



参加動機およびプロフィール

一昨年度、総合学習の授業で外国の小学校と交流をしたいと思い、上海の日本人学校と電子メールで交流をしました。この時から、現地の小学生との交流をしたいと考えるようになりました。昨年2月にはベトナムへのスタディツアーに参加し、小学校には訪問できませんでしたが、障害児施設を訪れることができました。そしてこの度の研修で、ちょうどベトナムの小学校コースが企画されていることを知り、迷わず応募した次第です。昨年7月には、私の学校にベトナムから小学校の先生をお二人お迎えすることができ、これからの交流の足がかりができました。

今回の実践は、子ども達の発達段階を特に考慮して取り組んだものです。子ども達の絵を通して平和のメッセージが交流できたことを大変嬉しく思います。今後は、両国の子ども同士が直接交流できる機会も作っていきたいと思います。

# ジャンボ！ アフリカ

## ～アフリカンマスク、マイマスク～

森本美鶴 MORIMOTO MITSURU

北島町立北島南小学校（徳島県）

●実践教科 総合的な学習の時間、図画工作

●時間数 18時間

●対象学年 4年生

●対象人数 54名

### カリキュラム案

#### 実践の目的

総合的な学習の時間では子ども達のアフリカの国々に関する主体的な調べ学習をもとに、教師自身が五感で実際に感じたタンザニアのレポートを導入することにより、タンザニアを含むアフリカの国々への興味・関心を高め、アフリカの現実を理解させたいと考えた。また毎年全校で呼びかけているユニセフ募金の意義を理解し、支援・協力を必要としている人々に、今自分たちに何が出来るかを考え合うなど、子ども達にできるボランティア活動への意欲をさらに高めたいと考えた。

図画工作では、開発途上国のマイナスイメージにとらわれることなく、アフリカの人々の温かくおおらかな人間性や、エネルギーで生命感あふれる

すばらしいアフリカ芸術にふれ、図工科が大好きな4年生の子ども達の表現活動への意欲を喚起し、ひとりひとりの個性が輝く、楽しく成就感のある造形活動を展開したいと考えた。

#### 目標

- ①アフリカの様々な国の概要で日本と関わりの深い事からについて調べ、日本とのつながりを理解する。
- ②アフリカの伝統芸術のすばらしさに気づき、興味・関心を高めるとともに、自分たちの造形活動への意欲を高める。
- ③開発途上国の現状を知り、日本との格差や豊かさについて慣れている自分たちの生活について考える。
- ④JICAや青年海外協力隊の活動について理解し、自分たちにできることについて考える。

#### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>1～6時限 〈総合的な学習の時間〉</p> <p>ジャンボ アフリカI</p> <p>アフリカの国々について調べよう</p>	<p>(1) グループごとに、日本になじみ深いアフリカの国々について調べる。(ガーナ・タンザニア・南アフリカ・マダガスカル・エチオピア・ケニア)</p> <p>(2) 各国について調べたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国旗、国の概要、特産物、日本とのつながり等</li> </ul> <p>(3) タンザニア研修についての話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然、気候、人々について</li> <li>・言葉、暮らし、たべもの、衣服、家について</li> <li>・交通事情、水事情、トイレ、病院、学校について</li> <li>・JICA、青年海外協力隊員の活動について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真集、本、雑誌、新聞</li> <li>・世界地図、アフリカ地図、タンザニア地図</li> <li>・インターネット</li> <li>・パワーポイント、青年海外協力隊員へのインタビュービデオ（研修で撮影）</li> <li>・タンザニアの物（カンガ、国旗、音楽CD、教科書、通貨など）</li> </ul>



時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p><b>7～8時限</b> 〈総合的な学習の時間〉  <b>ジャンボ アフリカⅡ</b>            アフリカのお客様をむかえよう</p>	<p>(1) ケニア・ガーナの2人のゲストティーチャーとともに、アフリカ6カ国の地図パズルゲームや、フォトランゲージをし、各国の特徴や人々の生活、日本とのつながりを話し合う。            (2) 2人のゲストティーチャーから、ケニアとガーナについて話を聞いたり、質問をしたりする。            (3) 全員で「チェチェコリ」のダンスを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ音楽のCD</li> <li>・前時で学習した国々の写真、輸入品、子ども達からの手紙</li> <li>・世界地図</li> <li>・OHP、パソコン</li> <li>・「チェチェコリ」の音楽テープ</li> </ul>
<p><b>9～16時限</b> 〈図画工作科〉  <b>ジャンボ アフリカⅢ</b>  <b>アフリカンマスク マイマスク</b></p>	<p>(1) タンザニアの絵画や木彫作品を鑑賞し、感想を話し合う。            (2) アフリカのお面を中心に、世界各地のマスクやトーテムポールを紹介し、マスクにこめた人々の願いや意味について理解する。            (3) つくりたいマスクをイメージし、ボール紙を使って、自分の願いや創意工夫を生かしたマスクを完成する。            (4) 発表会をし、全員で持ち寄ってトーテムポールを完成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティンガティンガアート、マコンデ村の木彫作品</li> <li>・世界地図</li> <li>・アフリカやその他の国のマスク、トーテムポールの写真</li> <li>・絵本「アフリカの音」</li> <li>・構想メモ、黄ボール紙、水張りテープ、白水性塗料、梱包用紐、絵の具、ニス、装飾用各種材料</li> <li>・ダンボール10個、白水性塗料、ガムテープ、アフリカのダンス音楽CD</li> </ul>

## 授業の詳細

※本実践は教科編「図画工作」として紹介するため、図画工作科の時間のみ掲載させていただきます。

### 9～16時限

#### ジャンボアフリカⅢ アフリカンマスク マイマスク

アフリカの自然・くらしから生み出された芸術は、生命感みなぎるエネルギーで力強い魅力にあふれている。ティンガティンガアートのカラフルなペンキ画や、何かを訴えているような存在感あるマコンデ村の木彫マスクに子ども達は魅了された。特にマスクは、黄ボール紙を使って成形することにより子ども達にも制作が可能であり、表情に一人一人の夢や願いが表現でき、形や装飾に創意工夫が生きる題材である。造形活動が大好きな子ども達は、アフリカのマスクから触発された、世界にひとつの自分

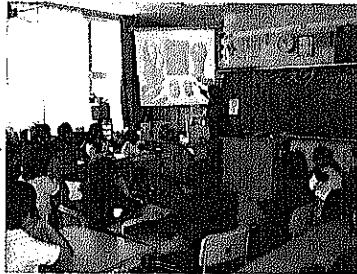
のマスク（マイマスク）作りにチャレンジした。完成までの過程は次の通りである。

アフリカをはじめとする世界各地の仮面には、喜怒哀楽や様々な願いが表現されている。

子ども達は、怒っているマスク、笑っているマスク、楽しくなるマスク、平和や緑がいっぱいのマスクなど個性豊かなそれぞれのマイマスクを完成した。自分の思いを自分の手でのびのびと豊かに表現するアフリカ芸術のすばらしさにふれ、自分のアイデアを生かした世界にひとつのマスク作りを通して、自分でつくる楽しさを味わう事が出来た。全員の作品が共同作品としてトーテムポールとなった時、ひとりひとりの違いや良さ、その大切さにも気づくことができたはずである。「みんなちがってみんないい」…この言葉を、身近な人との違いだけにとどまらず、自国以外の異文化を理解し、そのすばらしさに気づき、お互いに学び合う姿勢と大きな国際的視野でとらえた。



①アフリカのマスクを紹介する  
(マコンデ村の木彫マスク)



②世界各地のマスクとその目的についてOHPで説明する



③絵本「アフリカの音」を読み自然と共に生きるくらしをイメージさせる



④マスクの構想をたてる



⑤ボール紙で成形する



⑥水性塗料で下塗りをする



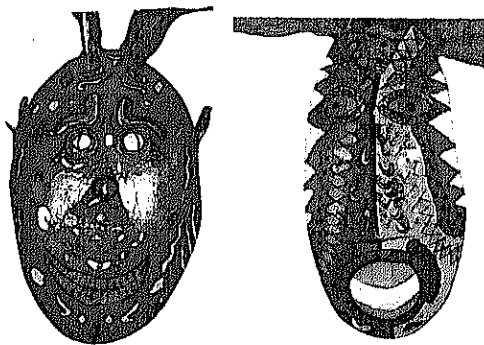
⑦マスクの下描をする



⑧ていねいに着色、ニスぬり、かざりをつける



⑨完成作の発表会を開く



<持ち寄り方式のトーテムボールの完成>

文芸春秋





## 【参考文献】

- ・青年海外協力隊の月刊誌「クロスロード」
- ・沢田としき 「アフリカの音」 講談社
- ・田沼武能写真集 「トットちゃんが出会った子どもたち」 岩崎書店
- ・田沼武能写真集 「輝く瞳 世界のこども」
- ・小口尚子・福岡鮎美 「子どもによる子どものための「子どもの権利条約」」 小学館

## 参加動機およびプロフィール

自分自身の中東バーレーンでの3年間の生活体験を糸口にし、総合的な学習において、アラビアの国から開発途上国へとつながる国際理解教育を実践してきました。アフリカの学習では、JICA国際協力出前講座で青年海外協力隊の方々より、アフリカ・ザンビアの水事情や建築の支援活動についてお話を聞く機会を持ちました。国際理解教育は開発途上国の現実や日本の支援の必要性への理解抜きには語ることはできません。このタンザニアへの研修旅行を通し、自らの目で見、肌で感じたアフリカについて、自分で子ども達に語れる言葉を持ち、生きる教材を開発したいと考えました。

アフリカには素晴らしい芸術が、それぞれの国に地域にそして村に受け継がれていました。教室に飾ってあるマコンデ村のマスクを見るたびに、これからも子ども達の楽しく個性豊かな造形活動を目指し、様々な開発途上国から学び、触発される教材開発に積極的に取り組みたいという意欲がわいてきます。アサンテサーナ（ありがとう）タンザニア！

# 世界の友達とつながろう

## ～「タンザニアの子ども達」の学習から～

高木光子 TAKAKI MITSUKO

熊本市立西里小学校（熊本県）

●実践教科 国語、総合的な学習の時間

●時間数 13時間

●対象学年 5年

●対象人数 35名

### カリキュラム案

#### 実践の目的

タンザニアでの研修を終えて思ったのは、私が研修で出会ったタンザニアの子ども達と日本の子ども達をつなげられないかということであった。タンザニアの子ども達の学習に対する誠実さ・礼儀正しさ・元氣な踊りと笑顔・働いている姿がとても印象

的だったので、このことを日本の子ども達が知り、互いに未来の地球を背負う仲間として認識し、自分の生き方につなげてほしいと思った。そこで、私が伝えたいことを文章にして学習していこうと考え、教材文（資料1）を作った。まず国語で扱い、そして自分たちで課題を持って調べあい伝え合う総合的な学習へとつないだ。

#### 授業の構成

##### 時間・テーマ・ねらい

###### 全校朝会

力を合わせて働くことの大切さを考える

##### 方法・内容

自分たちにもできることをしっかりやってみようという気持ちをもつことができるように

(1) タンザニアについて簡単に紹介

(2) あいさつ言葉や子ども達の姿を話す。

対象：全校児童444名

##### 使用教材

・写真（授業中の真剣な姿と下校時にまきを頭に載せて帰る子ども）

・頭にのせる輪とカンガ

###### 1～2時間 〈国語〉

タンザニアの子ども達の暮らしについて感想を持ち、読み深めの計画を立てる

(1) タンザニアの地理的な概要をつかむ。

(2) 教材文を読む

(3) 教材文を初め読んだ後のタンザニアのイメージや疑問を大切に読み深めの計画を立てる。

・アフリカの地図

・みんなの感想の一覧表

・教材文（資料1）

###### 3～6時間 〈国語〉

タンザニアの地理・歴史・文化と子ども達の暮らしを知る

(1) 豊かな自然、年中実る果実、川や海の水産品など、タンザニアの地理的な環境や食べ物について読み取る。

(2) タンザニアが歴史の深い国であることをつかむ。

(3) 彫刻や絵画などの長年育まれた文化を知り、明るく深いタンザニアのイメージをつかむ。

(4) 平均寿命が短いことから、タンザニアの課題について気づく。

(5) 水を汲んだり荷物を運んだりして働いている子どもがいることを読み取る。

(6) 決して恵まれているとはいえない学習環境で真剣に学んでいる子ども達の様子を読み取る。その現場に青年海外協力隊がいることを知る。

・マコンデ彫刻

・ティンガティンガの絵

・写真（魚・市場・ビクトリア湖・働く子ども・学校で出会った子ども・青年海外協力隊員）

・カンガ

・教科書

・タンザニアのノート

・ウガリの粉

時間・テーマ・ねらい

方法・内容

使用教材

7時間

〈国語（校内研究授業）〉

自分たちの暮らしと比べて心に残ったことを出し合い、自分のあり方を見つめなおす

- (1) 読んで考えたことを出し合い、友達の見からも学ぶ。
- (2) 考えを出し合うことから、自分の課題をもつ。

・自分の考えを書くためのカード

8～10時間

〈総合的な学習の時間〉

自分でもっと調べたいことを決め、調べてまとめる（国語学習の発展）

- (1) 個人の課題を調べる。  
方法：インターネット、JICAのHPへのメール、書籍、JICAタンザニア事務所へFaxによる質問など  
内容：「なぜ平均寿命が短いのか」など

・写真  
・本  
・課題を書くためのカード

11時間

〈総合的な学習の時間〉

調べたことを資料を基に発表する（授業参観）

- (1) 自分の課題の発表をする。友達の発表を聞いて考えたことを書き留めていく。

12時間

〈総合的な学習の時間〉

異文化理解を深める（交流会）

- (1) ケニア出身のオクムさんとの交流会を開き、ケニアの地理・歴史・文化・食文化について話を聴く。

★この後、子ども達はJICA事務所に向けて自分たちが考えたことを手紙にした。（資料2）

13時間

〈総合的な学習の時間〉

自分たちができることをしよう

- (1) いろいろなボランティアがあることを調べ自分たちができることを決める。6年生になっても続けられる長いスパンでの取り組みとする。（書き損じはがき集め、古切手集め、プルタブ集めなど）

## 授業の詳細

※本実践は、教科編「国語」としての掲載のため、国語の時間を中心に掲載させていただきます。

わたしにも未知の国だったタンザニアのことを子ども達がどのようにとらえるかは、教材文を作成しながらも不安であった。しかし、子ども達は同じ地球上に住む友達のことを意識の中心にすえながら読み取ってくれたように思う。以下、子ども達の反応を追いながらまとめた。

1～2時間

タンザニアの子ども達の暮らしについて感想を持ち、読み深めの計画を立てる

- (1) タンザニアの地理的な概要をつかむ
- (2) 教材文の初読
- (3) 教材文を初めて読んだ後のタンザニアのイメージや疑問を大切に読み深めの計画を立てる。

## 生徒の感想

- ・たくましく生きている子ども達の姿がある。日本と同じようにのりこえてほしい。応援していきたい。
- ・子どもが家族のために働いている。工夫して働いている。自分たちと違うぞ。  
(※多くの子どもがこの様な感想を書いていた。)
- ・JICAや青年海外協力隊の活動がとても大切なのだなと思った。
- ・家族思いなんだな。1度会って話してみたい。励ましあって生きている。よそから来た人を温かく迎えてあいさつをする人々、良い国だな。
- ・貧しいが元気に暮らしている。物をとても大切にしている。

3～6時間

タンザニアの地理・歴史・文化と子ども達の暮らしを知る

子ども達は教材文の内容を正しく理解するために丁寧に要点を読みとり要旨をまとめた。

## 7時間

### 自分たちの暮らしと比べて心に残ったことを出し合い、自分のあり方を見つめなおす

自分たちの暮らしと比べて心に残ったことを出し合い、友達の見聞も聞いて考える。

#### ■ 生徒の感想

- ・日本の昔とタンザニアの今はなんとなくにているな…と思いました。学校が終わって仕事をしたり、学校に行かないで一日中仕事をしているなんて、今の日本じゃ考えられません。でも、タンザニアの子ども達には、暖かい、やさしい心があると思います。私だったら、お客さんが来たときに、恥ずかしくてあまりしゃべらないと思います。でも、タンザニアの子ども達は、ちゃんと自分達で行動して、気持ちを伝えてくれます。じっくり読むと、だれにでも、温かい心を注いでくれるとてもやさしい子たちなんだなと思うようになりました。これから子ども達が大人になっても、みんなで協力し合う平和なタンザニアであると思います。
- ・日本は機械にたよって生活をしているけど、タンザニアでは機械もなく、一日一ドル以下の生活をしている人がたくさんいると知って、日本はぜいたくすぎるんじゃないかと思いました。タンザニアの子ども達は、一人一人が一生けんめい生活していて、とてもたくましいので、日本の子ども達も見習わないといけないと思いました。
- ・日本では、電気がある、テレビがある、水道があるのがふつう。タンザニアは学校帰りに荷物を持つ仕事がある。同じふつうでもずいぶん違うんだな。
- ・みんなの意見を聞いて、学校に行けない子ども達がいっぱいいるということを考えさせられた。今の私達では、学校にみんなが（タンザニアの子ども達が）行けるようにすることは、とうていムリだと思うから、私たちに今出来る「しっかり勉強すること」「きちんと協力し合うこと」という2つのことを精いっぱいやりたいです。いつかタンザニアに行って同じような生活をしてみて物の大事さを、もっとわかるようになりたいです。

## 8～10時間

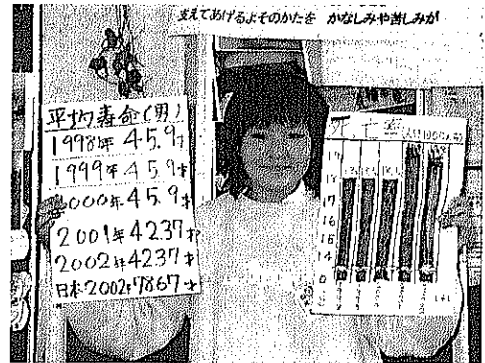
### 自分でもっと調べたいことを決め、調べてまとめる

次に示した課題について子ども達は意欲的に学習した。タンザニアが抱えている課題である医療事情や貧困そして日本との関係などについても子ども達なりにせまることができた。

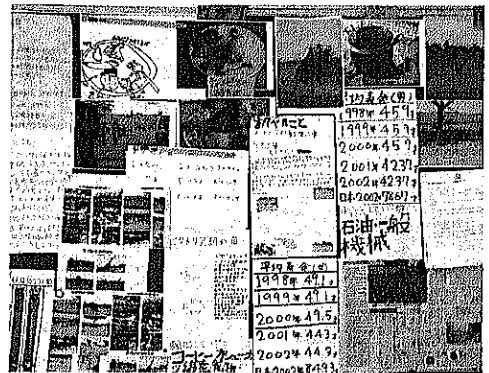
インターネットのJICAのホームページからEメールで質問したり、JICAのタンザニア事務所にFaxで質問をした。

#### ■ 子ども達の課題

- ・なぜ平均寿命が短いのか
- ・タンザニアの子ども達/学校生活
- ・タンザニアの食事
- ・タンザニアの家
- ・タンザニアの貿易について など



平均寿命について調べました。



各自の課題を提示して、内容を共有しました。

## 1時間

### 調べたことを資料を基に発表する

自分たちが課題について調べたことを友達や保護者に伝えた。地理的な事柄から課題まで幅広く調べた内容に加えて、子ども達の考えも含めての発表だった。保護者からは良く調べ考えているという感想をいただいた。

(発表の内容)

- ・貧困ということから経済について調べ貿易品から産業を興すことを考えた発表
- ・平均寿命から医師不足問題にたどり着いた発表
- ・働く子どもという現状から教育の課題、子どもの自立について調べた発表
- ・荷物を頭で運ぶということから骨格について調べた発表
- ・食糧事情について調べた発表
- ・貧困の原因について調べた発表

全ての学習を終えてから、子ども達はJICA事務所に向けて手紙を書いた。(資料2)

## 成果と課題

先日、性に関する学習で「エイズ」を扱ったとき、「エイズについて何か知っていますか。」と発問した

ところ「先生、マラリア、エイズでしょう。」という反応が返ってきた。タンザニアについて学習を深めて数ヶ月経っていたので驚いた。タンザニアの死亡の原因のトップランクにあるのがエイズとマラリアだということ—子ども達はこんなに学習したことをすうっと体の中に取り込んでくれたのだと、とてもうれしかった。また、オクムさんとの交流でもタンザニアと日本を比べながら学習を深めているということが子ども達の感想に書いてあった。

総合的な学習の時間での調べ学習を子ども達がとても興味を持って学習できたことの証だと思う。

今後、子ども達はこの学習内容を低学年にも伝えたいという思いをもっている。また子ども達は、『世界の役にたつことをしよう』とボランティア活動を全校に呼びかけて進めていく計画がある。世界に目をむけ自分たちも地球上の一員として、何かをしようという気持ちを持つ子ども達が順もしく思える。わたしもこれまで校内の国際理解教育にかかわってきたので、より一層学校全体としての取り組みを図り、充実させていきたいと思っている。JICA国際協力出前講座も計画していきたい。また個人的には熊本のいろいろな交流の活動にも参加し自分にできることをしていきたいと思っている。子ども達に「自分がやれることはするべきだ。」というエネルギーをもらった感じである。



### 1～2時間 授業に使用した教材文

#### タンザニアの子ども達と

「ハバリーガーニ」(こんにちは。元気かい。)

「ウンズーリ」(ああ、元気だよ。)

タンザニアではこんな言葉をかわして人々が出会います。元気でなくても、元気だよと答えるそうです。

みなさんは、東アフリカの国「タンザニア」を知っていますか。どんな国だと思いますか。そして、どんな人々が暮らしているのでしょうか。

タンザニアには東にインド洋・北西に世界第二のビクトリア湖があります。北部は珍しい動物が住む広い草原(セレンゲティ国立公園)が広がっています。そんな自然豊かな国で、年中おいしい果物がとれます。また、インド洋でとれる海の魚・ビクトリア湖でとれるナイルパーチやティラピア等の魚と食料に恵まれている所もあります。

また、人々はお客が大好きで、よそから来た人を温かく迎えます。あいさつも大切にして「家の誰々は元気かい。親戚の誰々は元気かい。」と声をかけあいます。ちょっと長い時間立ち止まって話します。

そして、ここタンザニアは人類発祥の地ともいわれています。タンザニア北部のオルトバイ渓谷で、百七十五年前のものだとされる現代人の祖先ジンジャントロプスの化石が発見されました。また、日本とのつながりも古くからあり、今から三百年程前に根付け（ねつけ）の材料として象牙（ぞうげ）の取引が行われていました。現在、日本はJICAを中心に「アフリカの貧困（ひんこん）撲滅（ぼくめつ）」をめざして支援を進めています。アフリカの人口の四割の人は一日一ドル（百円）以下の生活をしているのです。タンザニアの人口は約三千万人、その46%が0才から十四才、そして、平均寿命は四十九才と若い構成が若い国なのです。



カンガの布を売る商店

タンザニアの街角で伝統的なカンガの布を売っている店に行きました。カンガは人々の日常着なのでとても客が多く店は混雑していました。人々がカンガの布を買い求めると、袋を束にして持った少年がざっと数人寄ってきます。カンガを買った人は店からその布だけを受け取るので、その少年たちが布を入れる袋を店頭で売っているのです。私も買い求めることにしました。タンザニアでは初め予定した売値より高い値段をつけることが多いので、JICAのスタッフが少年と値段の交渉をしてくれました。もっと安くならないかと相談していくうちに、これ以上は下げられないという時の少年の苦しそうな瞳はいつまでも私の心に残っています。また、私たちが乗っていたバスが停車すると周りに物を売る少年が近づいてきました。地図を売る少年と値段を交渉している間に信号が変りました。運転手はバスを発車させました。するとその少年はバスが次

に停車する所まで全速力で走って、息をはずませて追ってきたのです。バスの中から拍手が起こりました。もちろん、その地図は売れました。一つでも売りたいという少年の必死の思いが伝わってきました。

また、荷物を運ぶ一つの方法として大人も子どもも頭の上に物をのせてすたすたと姿勢もくずさずに歩いているのをよく見ました。ビクトリア湖の近くで会ったある少年は小魚をバケツに入れて運



頭の上で荷物を運ぶ人々

んでいました。その重さが十五キロほどあると聞いて頭の上に乗せてみましたが、とても首で支えられる重さではありませんでした。鳥に魚をとられないようにバケツの中には木の棒が立ててありました。

ビクトリア湖畔の道沿いを車で走らせていたときも、まっすぐ続く道の両側をたくさんの人がバケツを頭にのせ、歩いていました。水を運んでいるのです。その中に子ども達の姿もありました。このように出会った子ども達は学校がある日に働いているのです。日本では考えられないことですが一。



独特のリズムでお客を迎える

私たちがムソマの小学校を訪ねたとき、出会った子ども達は「シカモ」と軽く頭を下げて迎えてくれました。また、荷物を持っているとそっと持とうともしてくれるのです。タンザニアは長く共同体として歴史を刻んでいるので、年長者や親を敬うことを社会全体で大切にしているのだそうです。また、客を温かく迎えることも大切にしているので、出会った子ども達は満面からこぼれる笑みで迎えてくれました。大きな歌声と全身をうまく動かす独特のリズムの踊りと共に。私たちもはじけそうになり、何度も一緒に踊りました。

教室をのぞいてみましょう。一クラスの人数の基準は四十名だそうです。訪れた学校はほとんど七十人から百人で一教室を使っていました。教室にあるのは板を黒く塗った黒板とチョークと机といすだけです。いすには三人から四

人がすき間なく座っています。机やいすが足らなくて床に座っている子どももいました。でも、私たちが行くとみんなで詰めて座って、私たちを座らせてくれるのです。黒板消しはスポンジだったり、布を使ったりしていました。天井も窓ガラスも電気もありません。入り口も一つなのです。

ちょうどバタバタ小学校を訪ねたときに日本の青年海外協力隊隊員の保健指導が行われていました。身長測定と目の検査とBCGの予防接種が行われていました。そこには、身長計もなく壁に目盛りを書いた紙をはって測定していました。黒板には課題がびっしりとスワヒリ語で書いてありました。小学一年生の教室でしたので、文字の数の多さにびっくりしました。子ども達は黙々とノートに写していました。そのノートに書かれた文字はともても丁寧にノートを大切に使用しているのがよく分かりました。村の雑貨屋さんで売ってあったノートは日本のお金で一冊二十五円でした。でもそれは一日の生活

費の約四分の一の値段なのです。教科書は日本円で約二百円から三百円、一日の生活費の二・三倍なのです。教科書は持っていない子どもがほとんどでした。みんなが持っているのは鉛筆一本とノート数冊です。中には、ノートを一冊しか持っていない子どももいました。タンザニアでは二〇〇二年から授業料は無料になったそうですが、制服が買えなくて、年間の費用九千シリング（日本円で九百円だが、現地の生活費の九日分）が払えなくて、また家の仕事の手伝いをしなくてはならなくて学校に来られない子どももいます。就学率は68%だそうです。

そんな環境の下で学習している子ども達ですが、学習に対してとても意欲的な感じをうけました。なぜでしょう。ノートをとる子ども達の姿・質問に答える子どもの顔・大きな声で歌う子ども達の歌声（もちろんオルガンは一台もありませんでしたが）に元気付けられた私たちです。休み時間は外で、棒を立てて作ったゴールを使って元気に走ってサッカーをしていました。ボールはビニルなどをひもで巻いて作ったものです。学習に使う教具もないのですが、校庭に石を並べてアフリカの地図が書いてあったり、大きな岩に世界地図が書いてあったりもしました。

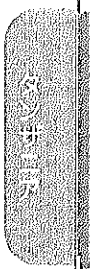
また、手を振りながらにこやかに帰る子どもの顔をふと見ると頭の上にまきがのっていました。十キロの道のりを毎日通っているという子どももいるそうです。

日本に帰り、タンザニアの子どもの話をし、写真を見せた時にある男性が、「大丈夫ですよ。わたしたちのあの時ほどやせていないから。」

との一言を寄せられました。その時、私は日本が戦争で何もなかった時代があったことを思い出しました。そんな時代を経て、今の日本があるのです。タンザニアの人々はこれからどのような歴史を刻んでいくのでしょうか。そして、わたしたちの住む日本もどのように歩んでいくのでしょうか。それは、今を生きる大人と子ども達にかかっているのです。ふと街角で出会った少年の姿が思い浮かびます。

**資料 2** 自分たちの考えをまとめた手紙（JICA事務所へ送ったものの例）

タンザニアについて	五年	代表会	私ども五年一組は、夏休みに先生外出、とま	とびょう	タンザニアについて勉強しました	先生は、タンザニアの小学校のようすなどを	文章にまとめ、本も作って下さりました。こ	の学習をやり始めたとき、私は、先生のいみ	かあさんたさう、どうしてタンザニアなの	な、と、いろいろなきもをもきました。	次に、自分かしたらべたのこましらべ	発表会をしました。みんなの発表をきいて一	ばんいんし、うにのこ、たごは、〇〇〇	んの発表した、あい音さんのかずです。日本	に、わい者さんは、何千人以上にいるの	タンザニアには一人もいせいで、な人と	なく悲しくなりました。私が発表したのは、	タンザニアの貧困の原因についてです。	発表したことば、考えられたことばです。	・チボツカビ、畑がたもたない。(宝島)	・お金がなく、畑仕事の道具が買えない。	・栄養のとり方も理かりしてない人が大勢い	る。	・土地が、い、	まじです。地図でも説明し	ました。	この学習をいかけて私、タンザニアの子	供たちのことを思、て、えんぴつや消しゴム	は、さりまりまで使いたいなと思、ました。	私は、タンザニアから、一日でも早く算し	て、	さかむくなればい、い、	と、思、ました。
-----------	----	-----	----------------------	------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	--------------------	-------------------	----------------------	--------------------	----------------------	--------------------	--------------------	----------------------	--------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----	---------	--------------	------	--------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----	-------------	----------



**参加動機およびプロフィール**

これまでの自分を振り返ってみますと、「いつも何か一生懸命になれるものに挑んでこられたことの幸せ」を思います。職場と家族に謝々。若き頃には夜を徹して人生論を論じ、汗して登った山の美しさに心洗われる経験をしました。その感動は、今の私の原点であるように思います。今は仲間とサッカーをして、心地よい汗をかく楽しさを味わっています。今回もこの研修に参加できたことを深く感謝しています。この体験を子ども達に、周りの社会に伝え広め、一人でも多くの笑顔が生み出せるように出来ればと思っています。タンザニアと日本を結び小さな力になれば。



# 遠い国?! タンザニア

中元継乃 NAKAMOTO TSUGUNO

吉井町立南小学校（長崎県）

- 実践教科 総合的な学習の時間・音楽
- 時間数 9時間
- 対象学年 5年生
- 対象人数 55名

## カリキュラム案

### 実践の目的

小学生には、「タンザニア」という地名を聞いただけでは、その位置や気候はもちろん、そんな国が存在することすら知らないほど遠い国、タンザニア。

そこでまず、位置、気候などタンザニアの地理について学習した。つぎにタンザニアは身近な国であり、その国の人々も私達と同じ人間であり、生活も私たちが何も変わらないのだという安心感を持ってもらうことにした。また、それが今回の私の目的でもあった。

タンザニアの研修では、お互いの伝統や文化がだんだんと失われつつあり、それを守ろうと努力している人々がいることや、私たち日本人のための歓迎の踊りを見たり、触れたりしたなかで、タンザニアも日本もそう変わりはないということを強く感じた。そこで、音楽の学習の「日本と世界の民謡」と関連づけて、全校で行う「学習発表会」で全校児童とその保護者などの多くの人にも、そのことを知らせたいと思った。

これらの学習を通して、タンザニアを、また異なる民族でも同じこの地球に住む、同じ人間であることを伝えることにした。

### 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限</b> 〈総合的な学習の時間〉 ・タンザニアはどこにあるのだろうか。 ・日本との気候の違いを知る。	・タンザニアの位置を知る。 ・世界の白地図を使って、タンザニアと日本の位置関係を確かめる。 ・気候と降水量を比較する。	・世界地図 ・地球儀 ・白地図 ・気温と降水量のグラフ
<b>2～3時限</b> 〈総合的な学習の時間〉 ・タンザニアは本当に遠い国なのだろうか？—日本の生活と食生活や学校生活が似ていることに気付く。	・現地の写真やモノからタンザニアの人々の生活について想像する。 ○衣服 ○食生活 ○学校生活 ○住まい ・タンザニアの人々の生活について知る。	・世界地図 ・現地の写真 ・ワークシート ・現地の教科書とノート ・カンガなどタンザニアの特産品

## 1 時限・テーマ・ねらい

### 4 時限 <総合的な学習の時間>

- ・タンザニアと日本との類似点は文化にもあることを知る。

## 2 方法・内容

- ・タンザニアの歓迎の踊りや歌を知ること
- ・でタンザニアをもっと身近に感じるとともに、音楽や踊りに興味・関心を持つ。
- ・タンザニアには激しく野性的な踊りだけでなく、自国を思う静かな美しい歌「タンザニア ナクベンダ」もあることを知る。
- ・「タンザニア ナクベンダ」を聞きながら、みんなで歌う。
- ・失われつつあるタンザニアの部族の踊りを若者達が守ろうとしている姿を見て、日本の民謡にも同様のことが言えることに気づく。

## 3 使用教材

- ・現地のビデオ

### 5 時限 <総合的な学習の時間>

- ・学習発表会で発表する内容を確認する。

- ・学習発表会の内容を確認する。

### 6-8 時限 <音楽>

#### 学習発表会にむけて

- ・「タンザニア ナクベンダ」と「阿波踊り」を練習する。

- ・「タンザニア ナクベンダ」を音楽テープに合わせて歌ってみる。
- ・「タンザニア歓迎の踊り」と「阿波踊り」のビデオをみて共通する動きを感じ取る。
- ・阿波踊り独特のリズムと掛け声にあわせて自由に踊ってみる。
- ・阿波踊りの男踊り、女踊りの違いや動きの方法を確かめ、踊りを覚える。

- ・「タンザニア ナクベンダ」の音楽テープ
- ・タンザニア歓迎の踊りのビデオ
- ・阿波踊りのビデオ
- ・タンザニアナクベンダの歌詞 (資料1)

### 9 時限

#### 学習発表会

- ・「守ろう、日本の民謡」を発表。

- ・タンザニア・スクマ族の若者の踊りを収録したビデオ

## 授業の詳細

※本実践は教科編「音楽」として紹介するため、授業の詳細は音楽の授業内容を中心に掲載させていただきます。

### 4 時限

## タンザニアと日本との類似点は文化にもあることを知る

前時までの学習で、タンザニアという国を身近な国ととらえた。本時では、タンザニアでも音楽の文化・民族舞踊が忘れられつつあるという、日本と似たような現象が起こっていることを知ることで、自分たち日本の文化も守っていく努力が必要なきにきていることを感じ取った。

スクマ族の若者たちが、部族の音楽や舞踏を研究し練習して、世界の舞踏のひとつとして守り継いでいこうとしていることを、実際に若者たちが音楽を奏で舞踏を踊っているビデオを見せながら説明した。

また、「タンザニア ナクベンダ」という自国を思う、静かな美しい歌をすべてのタンザニアの人々が歌い続けていることを伝えた。

子ども達は、その歌の内容の意味を聞いた後、タンザニアの人々の気持ちを感じながら歌を歌った。

### 5 時限

## 学習発表会で発表する内容を確認する

タンザニアの音楽と日本の音楽の文化が類似していることを、11月16日に行われる学習発表会で、全校児童と参観者に知らせることを伝え、発表内容(自作台本)を確かめた。

### <発表内容>

- ・ソーラン節の合奏・歌・踊り
- ・阿波踊り
- ・「タンザニア ナクベンダ」の歌
- ・「ていんさぐぬの花」伴奏と歌
- ・タンザニア・スクマ族の踊りをビデオで放映



・八木節の合奏

### 6時限

#### 学習発表会にむけてⅠ

まず、「タンザニア・ナクベンダ」をタンザニアの女子中学生が歌っている歌を収録したテープに合わせて歌う(資料1)。

再度、タンザニア・村の人たちの歓迎の踊りの様子をビデオで見て確かめる。次に、阿波踊りの祭りの様子をビデオで見せ、手の動きや身体の動きが村人の踊りと似ていることを感じ取った。

さらに、阿波踊りのビデオを見て、男踊りと女踊りがあり、その違いを理解すると共に、独特のリズムやかけ声と共に踊ることを伝えた。

最後に、阿波踊りのビデオを見ながら、男踊り、女踊りを自由に踊り、その楽しさを体験した。

### 7時限

#### 学習発表会にむけてⅡ

まず、「タンザニア・ナクベンダ」をテープに合わせて歌う。

次に阿波踊りの練習を行った。男踊り、女踊りの「脚の動き・腰の位置・手の振り方」の違いやその方法を確かめながら、踊りを練習した。数人のグループを作り、お互いの踊りを見合い、協力して阿波踊りを覚えるようにした。

独特のリズムは、あたり鐘をたたいて取り、かけ声「やっとなんとせー…やっとなんと」をかけることにした。その担当希望者全員が実際にあたり鐘をたたいたり、かけ声をかけて練習した。



発表風景

最後に、踊りとあたり鐘、かけ声を合わせて阿波踊りの大体を完成させた。

### 8時限

#### 学習発表会にむけてⅢ

歌「タンザニア・ナクベンダ」と前時で学習した阿波踊りの踊り方とリズム、かけ声の仕方を確かめながら、学習発表会での発表の練習をした。

### 9時限

#### 学習発表会

学習発表会当日、「守ろう、日本の民謡」を発表した。

## 成果と課題

私達は、ある国に対して何も知識を持っていない場合、その国に関する情報を先入観や偏見を持って間違っって受け取ったり、排他的な感覚を持ったりする可能性がある。純真な心を持つ小学生には、まず、皆同じ地球に住む同じ人間であると感じ取り、他国の人々を身近に感じ取らせることが必要と考えた。

今回は、「学習発表会」という公の場を通して、タンザニアの民謡音楽の実情や美しい歌をテレビや雑誌、新聞などでしか情報を知らない参観者全員に知らせる機会があったことをとても感謝している。

私たちは、社会科や世界史などでしか人類の歴史については学習しない。そのほかでは、その人自身が人生において興味・関心を持つ機会がなければ、学校で習った知識でしか世界を見ることができないと考える。日本人のアフリカの人々に対する乏しい知識をグローバルの時代に生きて行くであろう子ども達に与えてはいけないと思う。その点から考えても、今回のJICAの活動を通して、教育者として現地のタンザニアの人々に出会えたことは、これからの教師人生に大きな意味を持つと考える。

授業後に、一人の女子児童が、私の所へ来てこう言った。「先生、今までの授業で一番おもしろかったです。私は、将来、必ずタンザニアに行きます。」



### Tanzania Nakupenda Kwa Moyo Wote

1. Tanzania Tanzania, nakupenda kwa moyo wote,  
Nichi yangu Tanzania, jina lako ni tamu sana  
Nilalapo nakuwaza wewe, niampapo ni heri mama wee  
Tanzania Tanzania, nakupenda kwa moyo wote.
  2. Tanzania Tanzania, ninapokwenda safari,  
Kutazama maajabu, biashara nayo makazi,  
Sitaweza kusahau mimi, mambo mema ya kwetu hakika  
Tanzania Tanzania, nakupenda kwa moyo wote.
  3. Tanzania Tanzania, watu wengi wanakusifu,  
Siasa yako na desturi, ilituletea uhuru  
Hatuwezi kusahau sisi, mambo mema ya kwetu hakika  
Tanzania Tanzania, nakupenda kwa moyo wote.
1. タンザニア タンザニア 心底すきです  
私の国タンザニア なんて素敵な名前でしょう  
寝てもあなたの夢を見て、覚めてはとても素敵な気分  
タンザニア タンザニア 心底すきなよ
  2. タンザニア タンザニア 旅行に行けば  
不思議が一杯 職場には仕事が一杯  
私はとても忘れることが出来ない とても素敵なことばかり  
タンザニア タンザニア 心底すきなよ
  3. タンザニア タンザニア 多くの人が誉め讃える  
信念と伝統は 自由を我々に与える  
私達はとても忘れることが出来ない 何とも素敵なことばかり  
タンザニア タンザニア 心底すきなよ

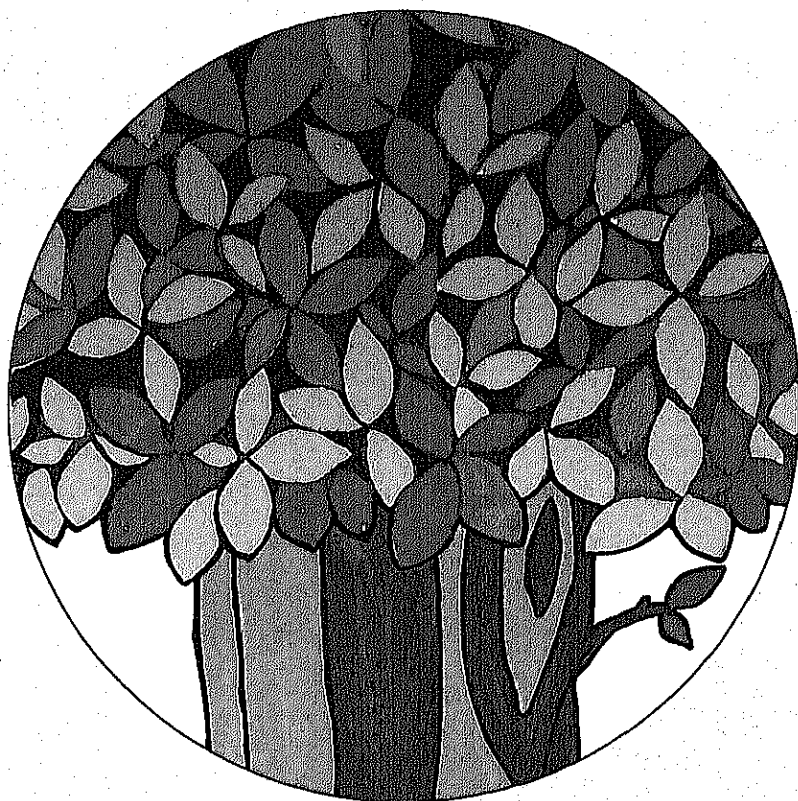
#### 参加動機およびプロフィール

現在、5年生を担当しています。「日本国内もまだ十分に知らないのに、海外なんて…」と思っていた私でしたが、小学校にも英語学習が導入されると知った数年前、オーストラリアに語学研修に行くことを決意。オーストラリアの偉大さと初めての異文化や生活の違いに触れ、逆に皆同じ人間であり、世界が、世界の人々の心が一つになる日が来ることを強く望み、感じるようになりました。そのためには、もっと他国の現状を知り、自分にできることを探して発見し、実践したいと思っています。

この情報化時代では、様々な世界のニュースを知ることができますが、一方では現地に行ったからこそ得られる情報が貴重です。タンザニアの踊りが廃れつつある実情は、日本にも言えることで、同じ地球に生きる同じ人間であることを私に強く教えてくれた研修でした。これからも、国境を越え、文化、宗教を認め合える心を持つ子ども達を育てていくことに、タンザニアの研修を役立てていきたいと思っています。



# 參考資料



## 事前研修

### 国内機関研修

実施時期：平成15年6月～7月  
 実施場所：JICA各国内機関  
 研修内容：開発途上国の現状と課題  
 ODAとJICAについて  
 研修国についての概況説明

### 東京研修の目的

- ・全国から集う参加者の親睦を図り、現地での視察のポイントや注意点等を学ぶことにより、海外での研修をより実り多いものとする。
- ・帰国後に“総合的な学習の時間”等を利用して国際理解教育（開発教育）へ取り組む際の考え方や手法を学ぶ。
- ・研修後の情報交換に役立つ参加教員間のネットワーク作りを促進する。

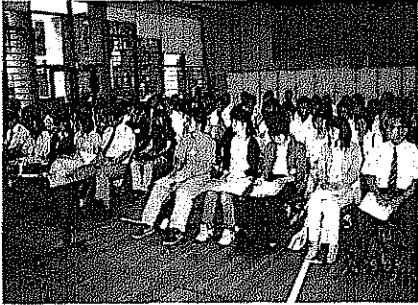
### 東京研修（直前研修）

実施時期：平成15年7月29日(火)～30日(水)  
 実施場所：JICA東京（TIC）

## 東京研修日程

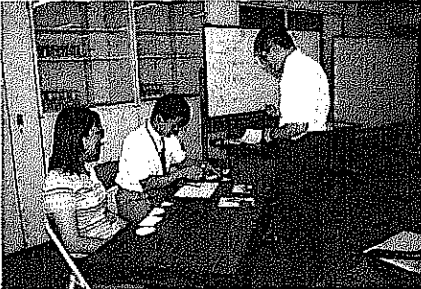
7月29日(火) 参加者同士の状況を把握しつつ、コース毎の団結をはかり、研修実施における役割分担及び現地交流の準備を行う。

### 第1日目

13:00～	受付開始		TIC本館ロビー
14:00～14:40	開会 1. 主催者挨拶 国際協力事業団 国内事業部長 湊 芳郎 TIC施設説明 TIC地域連携業務室 白井 宏明 2. 同行者紹介 3. 事前研修予定説明		体育館（本館1階）
14:40～15:10	コース毎自己紹介 （※9コースに分かれて実施）	下記以外のコース フィリピン フィジー タイ	体育館（本館1階） セミナールーム9 セミナールーム10 セミナールーム11
15:20～	コース別ディスカッション ・JICA同行者、訪問国情報提供者を中心に現地での視察目的・ねらい、訪問先での対応等について話し合う。 （役割分担などの確認も含む）		会場は同上コース別
17:00～	渡航手続等説明 各代理店より ・パスポート他関係書類の手交と、提出方法についての説明		会場は同上コース別
17:45～	終了 - 自由時間		

7月30日(水) 海外研修後の取り組みに役立てるための国際理解教育（開発教育）の考え方や具体的な手法を学び、参加者間の問題意識・課題等の共有を図る。

第2日目

8:50~10:15 (パート1) 10:15~11:45 (パート2)	開発教育アクティビティ・授業の実践例の紹介 ・異文化やコミュニケーションについて扱ったアクティビティを実践しながら紹介する。 ・国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ具体的手法を学ぶ。 講師：出口雅子氏（ヒナツボ復興むさしのネット） 白井香里氏（開発教育を考える会・開発教育協会理事） 竹山哲司氏（全国国際教育協議会） 瀬本浩之氏（開発教育協会） 綿谷亜希氏（開発教育協会）		各部屋にて集合 アセンブリールーム (本館4階) セミナールーム 9・10・11(本館4階) 体育館(本館1階)															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1班</th> <th>第2班</th> <th>第3班</th> <th>第4班</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パート1</td> <td>新貿易ゲーム</td> <td>バーンガ</td> <td>"もの"ランゲージ</td> <td>フォトランゲージ</td> </tr> <tr> <td>パート2</td> <td>バーンガ</td> <td>新貿易ゲーム</td> <td>総合実践! 教材紹介</td> <td>"もの"ランゲージ</td> </tr> </tbody> </table>			第1班	第2班	第3班	第4班	パート1	新貿易ゲーム	バーンガ	"もの"ランゲージ	フォトランゲージ	パート2	バーンガ	新貿易ゲーム	総合実践! 教材紹介	"もの"ランゲージ		
	第1班	第2班	第3班	第4班														
パート1	新貿易ゲーム	バーンガ	"もの"ランゲージ	フォトランゲージ														
パート2	バーンガ	新貿易ゲーム	総合実践! 教材紹介	"もの"ランゲージ														
11:45~12:00	休憩																	
12:00~	開発教育概論 講師：白井香里（開発教育を考える会代表） ・開発教育の考え、総合的な学習の時間への導入などについての動きを整理する。 実践報告書（教材集）作成にあたってのポイント		体育館(本館1階)															
12:40~	昼食		食堂または各自															
13:40~	教材集の作成について 国内連携促進課 関口 美紀 ・研修報告書の作成と提出に関する説明 ・実践報告書（教材集）の題名説明と、提出方法について		体育館(本館1階)															
14:15~	休憩																	
14:30~15:45	テーマ別打ち合わせ (教科や学校で抱えている問題を出し合い、関心のあるテーマについて話し合いながら、模擬授業案を作成する。もしくは、作成に必要なポイントをまとめる。興味・関心別によるテーマ別ディスカッション)		体育館(本館1階)															
15:45~16:00	休憩																	
16:00~16:45	テーマ別ディスカッション 内容発表		体育館(本館1階)															
16:45~17:00	休憩																	
17:00~19:00	結団式 国内連携促進課長 小幡 俊弘		体育館(本館1階)															

\*研修は独立行政法人化以前に行われたため、機構名、担当課名は旧称で表記されています。

参 考 資 料



コース別日程／参加者氏名

フィジー

7月31日	木	19:00	成田空港出発	機中泊
8月1日	金	7:00 13:30	ナンディ借 ラム酒工場見学 ラウトカ市内視察	ナンディ
8月2日	土	10:00 14:30	ビセイセイ村市内観光 ナンディ市内視察	ナンディ
8月3日	日		マナ島視察	ナンディ
8月4日	月	9:00 11:30 15:00 15:30	ラウトカ病院：笹川シニアボランティア（医療機器維持管理）活動現場視察 ナンドロカ・ナボザ高校：藤井隊員（理数科教師）活動現場視察 在フィジー日本大使館表敬訪問 JICA事務所訪問	スバ
8月5日	火	9:00 10:00 12:00 14:30	フィジー教育省表敬訪問 ライワンガメソジスト小学校：池田隊員（小学校教諭）活動現場視察 環境局：木邑隊員（環境教育）活動現場視察 USP（南太平洋大学遠隔教育ネットワーク強化）プロジェクト：高橋専門家	スバ
8月6日	水	9:30 12:00 14:30 15:45	フィジー技術学院（FIT）：田中隊員（日本語教師）活動現場視察 レブカへ移動 レブカ町役場：窪崎隊員（建築）活動現場視察 レブカ町内見学	レブカ
8月7日	木	9:00 10:00 16:00	レブカ小学校：三浦隊員（小学校教諭）活動現場視察 レブカ養護学校視察 レブカからスバへ移動 JOCV20周年セレモニー出席	スバ
8月8日	金	9:00 13:30 15:30	フィジー技術学院（FIT）：井戸シニアボランティア（自動車整備）活動現場視察 プニンモノ高校：獅子見隊員（日本語教師）活動現場視察 JICAフィジー事務所 研修報告会	スバ
8月9日	土	午前 14:00 夜	スバ市内視察 JOCV20周年イベント参加 JICA関係者との懇親会	スバ
8月10日	日		スバからナンディへ移動	ナンディ
8月11日	月	10:50 17:00	ナンディ国際空港発 成田着	

現地に行く前のフィジーに対する自分のイメージは、「楽園・きれいな海・リゾート」であった。しかし、実際に視察をするにつれ、このイメージはフィジーのほんの一部であり、観光客が行くリゾート地のみのお話であることがわかった。また、人々の明るい笑顔や人懐こい人柄に接していると一見のんびりとして平和そうに見える島国だが、歴史的背景によりいろいろな問題を抱えていることも知った。

釧路市立芦野小学校 吉川 千穂

「1この消しゴムを、みんなで画しながらついていたわ。言ってくれば、日本からたくさん持ってきてあげたのに・・・」と訪問後の感想を述べた先生に、JICA職員の「今ある物を、必要に応じ協力しあいながら、また、助け合いながら共有し使用している姿は、かわいそうというより、美しい姿だと思いますか？」との反論を聞き、自分の傲慢さに気付かされ、恥ずかしい思いがした。

千歳市立信濃小学校 中村 信義

ふしかわ ちほ 吉川 千穂	北海道 釧路市立芦野小学校	にいや ようこ 新家 陽子	東京都 日本女子大学付属豊明小学校
なかむら のぶよし 中村 信義	北海道 千歳市立信濃小学校	ゆきはら ちよ 雪原 知代	栃木県 高根沢町立阿久津小学校
ながい つとむ 永井 勤	秋田県 秋田市立飯島小学校	たためぼ ほさえ 藪沼 正江	埼玉県 草加市立八幡小学校
たかはし えいこ 高橋 栄子	秋田県 稲川町立川連小学校	たかはし ひろよ 高橋 裕代	新潟県 湯沢町立湯沢小学校
はせがわ えみ 長谷川恵美	山形県 温海町立鼠ヶ関小学校	さとう ようこ 佐藤 陽子	東京都 武蔵野市立境南小学校
ねもと たえこ 根本多恵子	福島県 白沢村立白岩小学校	あかぎ ようこ 赤木 洋子	神奈川県 川崎市立宮前平小学校
おざわ えつこ 小澤 悦子	茨城県 守谷市立松前台小学校	おざわ ともひ 尾澤 知典	神奈川県 横浜市立三保小学校
おおみや みのる 大宮 実	東京都 練馬区立谷原小学校		

●同行者 和田裕司 JICA札幌

協力隊の目的についてであるが、第一には相手国（フィジー及びフィジー国民）のために、ということであると思う。もちろん自分自身の成長のためということもあるだろう。しかし、やはり自分のためというのは二次的なものであると思う。そのことを忘れないで活動して欲しいと思った。これは我々研修団員にも言えることである。今回の研修は帰国後の教育活動のため、つまり子供たちのためなはずである。

秋田市立飯島小学校 永井 勤

日本のテレビ・雑誌等で私たちに提供される情報が、いかに偏ったものであるかを実感した。フィジーに関して言えば、出発前に私が知り得た情報は、一般的な地理的なものと常夏のパラダイスというイメージだけであった。まわりの人達の反応も、「フィジーってどこ?」というものと、「リゾートでしょう。いいわねえ。」というものだけであった。このような情報社会にあっても、私たちが日本で受け取る情報は、極々一部分でしかないのである。与えられた情報を丸ごと信じて判断しないこと、自分の目で見て確かめることの大切さを痛感した。

稲川町立川連小学校 高橋 栄子

一番印象的だったのは、協力隊員の方々が、とても現地にとけ込んでいるということです。レプカでお会いした窪崎隊員は、町長にも「ヨシ」と親しみを持って呼ばれていて、絶大な信頼を得ていることも感じられました。その地域に必要なことを、そこで出来るやり方でやる、その根底には、その土地を愛し、その人を愛するといった人種を越えた人間愛が流れているのだと思いました。

温海町立鼠ヶ関小学校 長谷川 恵美

一番の収穫は、時間を無駄にしないことと、突撃訪問（初対面の人に会話を申し込みフィジーの話を聞くこと）でした。研修と研修の間のわずかな時間にも現地の人と積極的にかわり、話を聞くことができ、思わぬ収穫を得ました。片言の英語でも思い切って現地の方とかかわってきてください。

白沢村立白岩小学校 根本 多恵子

「百聞は一見に如かず」まさにこのことわざ通り。どんなに書物や映像等で、その土地や地域に関して理解を深めたつもりでも、現地に行って、自分の目で見て、感じたことにはかなわない。今回の研修は、その意味で何物にも代え難い経験になった。

守谷市立松前台小学校 小澤 悦子

青年海外協力隊やシニアボランティアの方の活動をこの目で実際に見ることができたこと。これが今回の視察で一番参考になったことである。今までも本やインターネット、体験談などから活動の様子をうかがい知ることはできた。しかし今回は実際に活動場所で、活動の様子を見学することができた。まさに「百聞は一見に如かず」であった。

練馬区立谷原小学校 大宮 実

理屈でなく、地球上には様々な文化を持ち、生活している人たちがいるということを感じることができた。ものを見つめるということ、ものや事柄にじっくり向き合い考えるということ、そして実際にそれらを表現すること、というのは、ただ年を経ればできるというものではなく、そのような経験を重ねることが必要である。これは今の生活の中で忘れていたことで、これから心にとめて勤めたい。

日本女子大学付属豊明小学校 新家 陽子

期待した以上に有意義な研修となりました。まず、何より私自身得たものが大変大きいと感じています。はじめはどのような目的で行われ、具体的にはどのような体験ができるのか、よく分からず不安なところもありましたが、事前研修で同行するメンバーとの親睦が図れたことで、出発の頃には期待の方が大きくふくらんでいました。

高根沢町立阿久津小学校 雪原 知代

体験したことすべてが、参考になりました。特に、青年海外協力隊やシニアボランティアの方々をはじめ専門職やJICA事務所の皆さんが、積極的に生き生きと活動していられる様子に感銘を受けました。さらに、日本からの援助が地道な活動の継続を通してフィジー国に受け入れられ、人々の心に根付いていることを感じ取ることができました。

草加市立八幡小学校 蓼沼 正江

協力活動に携わっている方々が現地の方々ととけ込もうと努力している様子や、周囲の方から頼りに

されている様子が伺え、そのことが特に印象に残っています。そして、「教えてもらうことばかりです。」と、協力隊の方が言われていた言葉にも重みを感じ、印象に残っています。ボランティアのありがたさを、もう一度考えさせられました。

湯沢町立湯沢小学校 高橋 裕代

どこに行っても、「ブラ！」と明るい笑顔で話しかけられ、学校を訪問しても、PTAの方々から身に余る歓迎を受けた。これは、今日までフィジーでJICAの青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、その他日本の方々がフィジーに対して貢献し、誠実に活動してきたことの恩恵を受けているのだなあと思つづく感じた。

武蔵野市立境南小学校 佐藤 陽子

それぞれの動機があり、それをばねにこの貴重な経験をする機会を手にし、それをやり抜くことで今後の生き方への方向性を見出すことは、素晴らしいことだと思います。各自の願いと派遣する側の条件とが一致しているのだから、それはそれでよいのかもしれません。しかし、一人一人にどのような使命を担って派遣されたのかということにもう少し比重を置いて考えられてもよいのではないかと感じました。また、この使命を成し遂げた方々の帰国後に、この貴重な経験を生かした社会への還元を期待します。

川崎市立宮前平小学校 赤木 洋子

今回の視察で一番の収穫は、いろいろな立場の人から意見を伺うことができたということです。つまり、日本の大使や現地の教育省の方といった行政の側からの意見や、現場で働く先生や協力隊の隊員、そして一般の住民の方といった市民レベルの側からの意見ということです。協力する側はさまざまな目的のもとに協力活動を行っているが、人材派遣という側面では実際に現れてくる行動はどの立場の人たちも一致していたような気がします。

横浜市立三保小学校 尾澤 知典

コース別日程／参加者氏名

ベトナム Viet Nam

日付	曜日	時刻	内容	場所
7月31日	木	17:00	成田空港出発	ハノイ市
8月 1日	金	9:00 14:00 15:00	ハノイ市公立小学校視察(ホアン ティユプライマリースクール) 日本大使館表敬訪問 教育訓練省(MOET)初等教育局 表敬訪問	ハノイ市
8月 2日	土	9:00 10:00 14:00	ホーチミン廟表敬(ホーチミン氏の旧住居見学含む。) 文廟見学 民俗学博物館見学	ハノイ市
8月 3日	日		終日自由行動	ハノイ市
8月 4日	月	7:30 9:00 10:00 11:30 14:30 19:00	ハンザ市場視察 JICAベトナム事務所表敬訪問 ハノイ市からホアビン市へ移動 ホアビンダム周辺視察 ホアビン省植林プロジェクト予定サイト視察 (ラオフォン村トゥンナイコミュニティエン集落) JICA関係者(ジュニア専門員、調整員、協力隊員)との懇親会	ホアビン市
8月 5日	火	7:30	ホアビン市からマイチャウ県へ移動 少数民族の民家に宿泊	マイチャウ県
8月 6日	水	7:00 15:00	マイチャウ県からハノイ市へ移動 日本ベトナム人材協力センター視察 貿易大学日本語コース学生と交流会	ハノイ市
8月 7日	木	7:00 8:30 10:00 11:30 14:00 18:30	ハノイ市からハーナム省へ移動 ハーナム省人民委員会教育省表敬訪問 タンギ村立小学校視察及び意見交換、隊員住居・村落地域視察等 小学校関係者との昼食会 ニャットゥ村立小学校、隊員住居・村落地域視察等 ハーナム省からハノイ市へ移動 青年海外協力隊員との懇親会	ハノイ市
8月 8日	金	18:30 18:30	18:30まで自由行動 (資料及び報告書整理、教材の購入・郵送手続き等) JICAベトナム事務所員との懇親会	ハノイ市
8月 9日	土	8:00 15:30	ハノイ発 成田着	

参考資料

氏名	出身地	出身校	氏名	出身地	出身校
山口 浩	長野県	上田市立塩尻小学校	松本由美子	大阪府	高槻市立大冠小学校
瀬戸 誠	静岡県	引佐町立金指小学校	芝田 勝也	奈良県	斑鳩町立斑鳩東小学校
中島みどり	愛知県	名古屋市立大森小学校	西裏 慎司	京都府	京都市立梅小路小学校
高橋 孝彦	岐阜県	美濃加茂市立古井小学校	大月 正雄	滋賀県	湖東町立湖東第二小学校
廣 ひろこ	三重県	桑名市立大成小学校	上田 ひとみ	大阪府	豊中市立東豊台小学校
前田 隆幸	愛知県	甚目寺町立甚目寺小学校	池口 芳子	兵庫県	神戸市立霞ヶ丘小学校
中谷 幸子	福井県	福井市松本小学校	大西 明美	兵庫県	宝塚市立長尾南小学校

●同行者 野々垣照美 JICA大阪

今後どのような支援をしていくことが望ましいのか議論のあるところだと思うが、日本の支援で立てられた学校や橋などの立派なハード面も視察させていただいたが、そこにソフト面で協力隊員の人々が現地にとけこみながら、厳しい環境の中で着実に活動しようとしている姿に同じ日本人としてうれしい気持ちになりました。

上田市立塩尻小学校 山口 浩

私は今回、とても貧しいといわれている村落も視察する機会を得ました。そこで感じたのは、その村には彼らが築き上げてきた伝統文化があって、その知恵はとても尊いものであり、それを一方的な開発で壊してはいけないなと思いました。JICAの専門家やボランティアの方々はそのことを重々分かって熱心に活動していました。

引佐町立金指小学校 瀬戸 誠

最も心に残っているのは、ホアビン省の植林プロジェクトである。植林=木を植えることではない。木を切って焼き畑をせざるを得ない地域や人々の生活を変えていく総合的な活動である。「単に植林するだけでは焼き畑はなくなる」と少数民族の村で貧困調査をしている菅原さんは言っていた。

名古屋市長大森小学校 中島 みどり

まず、青年海外協力隊員の人々がどんな場所で活動をし、どんな場所で生活をするのかがよくわかり、中途半端な気持ちではできないことを感じ取った。また、日本が海外でどのような支援をしているのかをほとんど知らなかったが、どのような協力をしているかがよくわかり、ぜひ子どもたちに伝えたいと思った。

美濃加茂市立古井小学校 高橋 孝彦

ベトナムでは、子どもがさほど豊かとは言えない施設・設備で学んでいます。その子達の意気込みのようなものが伝えられたらいいと思います。精神論になるつもりはありませんが、豊かさの意味を見失いがちである日本の子ども達に、学ぶことができ

るということはどんなにすばらしいことであるのかももう一度伝えたいです。そのために、現地の小学校との交流を進めていきたいです。

桑名市立大成小学校 廣 広子

東京での事前研修で、同行するメンバーと活動する時間があり、お互いに国際理解について意見を交換する場があった。そのことが、ベトナムでの研修をより充実させたように思う。ベトナムで同じ物を見ても、感じ方は人それぞれで、いろいろな視点からベトナムを見ることができ、学ぶべきものが何倍にもなった。

福井市松本小学校 中谷 幸子

天然林回復計画という大きなプロジェクトを支える計画書、それにも増してそれを実行するために日本を代表する一人として村の人々のことを一番に思っていて活動している姿に感動しました。そしてその感動を日本の子ども達に伝えたいと強く思いました。佐藤さんの『世界は欧米人だけで動いているのではない。』と言う言葉が印象に残っています。これも子ども達にぜひ伝えたい言葉です。

高槻市立大冠小学校 松本 由美子

多々達成されたという充実感と、たった八日間でも何が分かったのだという思いは、日を重ねるたびに、後者が重くなってくる。この目で見、この耳で聞き、この肌で感じ取ってきたことは、すべてが事実である。しかしそれは、表面的な一面の事実であり、その奥には深い多くの事実があるのだと。ただ、今言えることは、さらに深く知りたいときには、ベトナムに住むベトナムの人や日本の人に、連絡が取れるということである。それが今の一番の宝である。

斑鳩町立斑鳩東小学校 芝田 勝也

今回の教師海外研修を終えてからJICAのキャッチコピー『人造り・国造り・こころのふれあい』がより深く響くようになりました。「なるほど、うまい言葉だなあ」という感心に至るプロセスを、学習の過程として再現できるような学びの場を、子ども

たちに提供することができればいいと今は思っています。

京都市立梅小路小学校 西裏 慎司

派遣国についてより正しく理解するために、決めつけや思い込みをなくして、いろいろと解釈を巡らすことが大切だと感じている。同じ場面を見ても、また同じ説明を聞いても、今回の参加者の中でも受け止めた事実認識が異なっていたようだ。とにかく異国のことである。日本で生まれ日本で暮らしている私たちには自覚できないまでもそれなりの価値観や固定観念がある。だからこそ見かたを180度切り替えて、その国を理解しようと努めることがとても大切だと痛感した。

湖東町立湖東第二小学校 大月 正雄

今回私が参加したヴェトナムチームは『明るく楽しく 仲よく』研修することができたグループでした。団長さんをはじめ盛り上がる時は盛り上がり、引き締めるときは引き締め、とても団結力がありません。心に残る研修となったのはヴェトナム

での出会いもたくさんありましたがヴェトナムチームの人たちとの出会いも大きかったと思います。

豊中市立東豊台小学校 上田 仁美

今回の視察を通して最も印象に残ったことは、ヴェトナムの子供たちの生き生きとした姿と日本語を学ぶ学生たちの学習に対する真摯な態度でした。そして、今まさに発展していこうとしているハノイの都市の様子も、実に印象的でした。

神戸市立霞ヶ丘小学校 池口 芳子

最初は警戒していた子どもたちや村の人たちも次第に人なつこく話しかけてきたり、友好的な態度で接してくれたりするようになりました。最後のお別れの時には私たちは感激のあまりお礼の意を込めて「ふるさと」と「赤とんぼ」の歌を歌いました。息子さんや娘さんもお返しに歌を歌ってくださいました。私たちがその場で考えた突然のことでありましたが確実に心と心が通じ合ったことを確信したひとときでありました。

宝塚市立長尾南小学校 大西 明美

コース別日程／参加者氏名

タンザニア Tanzania

日付	日	時間	内容	備考
7月31日	木	10:25	成田空港発	機中泊
8月1日	金	12:00 14:00	日本大使館表敬訪問 JICA事務所訪問	ダルエスサラーム
8月2日	土	8:30 11:00 14:00	キストゥマーケツト見学 魚市場見学(無償資金協力) クラシニ加児院 廣田隊員(ソーシャルワーカー)活動現場視察	ダルエスサラーム
8月3日	日	8:00 10:30	キババへ移動 ビジワジワ村訪問	ダルエスサラーム
8月4日	月	9:30 14:00	タバタ小学校 武田隊員(保健士)活動現場視察 ゴンゴラムボト小学校訪問 無償資金協力	ダルエスサラーム
8月5日	火	9:15 11:00 14:00	ムワンザへ移動 ウサガラ小学校訪問 ブテインバ教員養成大学 藤野隊員(美術)活動現場視察	ムワンザ
8月6日	水	8:00 9:45 14:00	ブイル技術中等学校 塚越隊員(建設設備)活動現場視察 ブイル小学校訪問 ブガンド病院付属薬剤師助手学校 土谷隊員(薬剤師)活動現場視察	ムワンザ
8月7日	木	8:00 13:00 15:00	ムソマへ移動 靴修理工場見学 ムソマ技術中等学校 佐藤隊員(理数科教師)活動現場視察	ムソマ
8月8日	金	8:30 11:00	ニエレシの家見学 セレンゲティ国立公園	ムワンザ
8月9日	土	14:00 19:00	ダルエスサラームへ移動 ティンガティンガ村 JICA関係者との懇親会	ダルエスサラーム
8月10日	日	8:15 10:30 14:00 23:35	JICA青木所長との報告会 バガモヨ見学 マコンデ村 ダルエス発	機中泊
8月11日	月	8:05 14:40	アムステルダム着 アムステルダム発	機中泊
8月12日	火	8:45	成田着	

参加者氏名

氏名	所属	所属学校	氏名	所属学校
なかやま けんじ 中山 健次	広島県	広島市立久地南小学校	ふじの ひろし 藤野 博司	福岡県 福岡市立野多目小学校
たのほた ひろかず 田ノ畑弘一	山口県	玖珂町立玖珂小学校	たかき みつこ 高木 光子	熊本県 熊本市立西里小学校
いしな かつみ 石名 勝実	鳥取県	岩美町立岩美西小学校	ながみね ひろし 永峯 宏	鹿児島県 吹上町立花田小学校
やりこうち かほる 鐘河内 薫	愛媛県	松山市立和氣小学校	なかに かつの 中元 継乃	長崎県 吉井町立南小学校
もりもと みつる 森本 美鶴	徳島県	北島町立北島南小学校	かわはら ひでゆき 川原 英之	佐賀県 富士町立富士南小学校
おびき みほ 尾崎 美保	高知県	高知市立浦戸小学校	いけだ ゆみ 池田 裕美	沖縄県 豊見城市立上田小学校
うらべ かつじ 浦部 勝二	愛媛県	城川町立魚成小学校	てんがん ながみつ 天願 直光	沖縄県 宜野湾市立大山小学校

日本人が忘れてしまったもの、いや、むしろ経済的な繁栄の名の下に意図的に捨て去ってきたものを、かの地の人々は大切にしていました。そういう意味ではまさに自分自身の生き方、日本人の生き方を日々問われているようで、ある種、心が疼く視察であったことも事実です。

広島市立久地南小学校 中山 健次

アフリカは貧しいという先入観がありましたが、実際行ってみると、タンザニアの人々の明るさ(笑顔、歌や踊りが上手)おおらかさ(時間を気にしないボレボレ精神)、あたたかさ(バスで子供たちは年上に席を譲ったり、荷物を持っている人を助けたり、街で車いすで困っている人がいれば助けたり)など日本が失いかけている豊かさ、たくましさを感じることができました。

玖珂町立玖珂小学校 田ノ畑 弘一

タンザニアには「ボレボレ」という素敵な言葉があります。タンザニアの良さを失うことなく、ゆっくりと成長していったほしいと感じました。そういう意味では、現地に溶け込み、現地の人々のペースに合わせている協力隊の方々の活動こそが最も求められている国際協力ではないかと感じました。

岩美町立岩美西小学校 石名 勝実

アフリカ大陸のタンザニアで、多くの物的、人的支援が行われていた。どの地に行っても「ジャパニ、ジャパニ。」と歓迎されるのは、JICA所員の方々と青年海外協力隊の方々が、現地の人たちのために一生懸命活動されているからだということがわかった。「日本国民の皆さんへよろしくお伝えください。」という歓迎の言葉を聞いて、日本が行っている国際協力を私も含めた日本人が、いかに知らないかということに改めて感じた。

松山市立和氣小学校 鏝河内 薫

本や資料では伝わらない、JICAの職員や隊員の方々の生の言葉・生活・苦勞・喜びが伝わってきました。単なる外国へのあこがれだけでは務まらない、

地道で粘り強く、人と人とのつながりを大切にするヒューマンな活動です。日本がお金だけを援助しているのではなく、価値ある人的貢献にどれほどつくしているのか、ひとりひとりの草の根的な活動の輪が広がり、たくさんの国・人とのきずなを結んでいる現実を知りました。

北島町立北島南小学校 森本 美鶴

母国タンザニアの伝統文化をしっかりと守りながら、不便な中であたり前のようにその日その日を全力で生きぬいている人々。彼らの満面の笑みの中には、不平・不満はみじんもありませんでした。平均寿命47才という現状に目を向けると医療の充実など、まだまだ援助の徹底も欲求されるころだと思えますが、それ以上のハード面の援助(近代国家化していくこと)が果たして、どこまで必要なのだろう。

高知市立浦戸小学校 尾崎 美保

押しつけではなく、日本人の価値観でもなく、現地の方に合った援助というものの大切さを感じた。そして外国人となった自分達は、現地の伝統や文化を見たいと思っていたこと。これは逆に言うと、日本に来る外国人が何をみたいかを考える参考にもなるし、我々が大切に、守っていかなければならないものとは、日本の伝統や文化ではないかと思った。

城川町立魚成小学校 浦部 勝二

たまたま現地の方がツェツェバエにさされたので、私は何も考えずに日本の薬を出そうとしました。そこへ「待ってください。現地の人にはたたいておけば大丈夫です。薬に対してアレルギーがあるかもしれません。」との協力隊員のアドバイス。これだと思いました。本当に相手を知って日々活動してらっしゃるからこそその判断です。このことから多くのことを考えさせられました。

熊本市立西里小学校 高木 光子

これまで、募集説明会などを通して青年海外協力隊員の姿はよく知っていたが各国のJICA事務所員の方々の姿が見えていなかった。それが、今回の研

参考資料



修でタンザニア事務所の方々にいろいろとお世話になり、国際協力というものはいろいろな人の協力の下になりたっているのだということに気がついた。ODAの現場を実際に見ることができたのは貴重な経験であった。

吹上町立花田小学校 永峯 宏

自分もいずれ世界平和の一役を担うことができれば、隊員として海外で働きたいという夢を持っています。その夢の隊員の方々と現実にお会いすることができて、必ず味わう「孤独感」から、本当の意味の「生きる力」「強さ」「自分の役目」「人間の存在感」を得て初めて、赴任した国のことを愛し、働けるのだと隊員の方々の生き方に感銘しました。

吉井町立南小学校 中元 継乃

これから学校で、抽象的な言葉ではなく、自分の五感を通して得た経験や活動から考えたり学んだりした具体的な言葉で、子ども達に伝えていくことができると思うし、そうしなければならぬとも思います。子ども達は先生を通してその国を身近に感じられるし、先生の思いをしっかり受け止めます。それだけに、子ども達に伝えるべき責任がこの研修を経験した自分にあると思いました。

富士町立富士南小学校 川原 英之

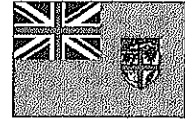
先進国とタンザニアとの関係は沖縄と本土との関係によく似ていると思った。占領されてきた歴史、温暖な気候、時間の流れ、精神面、そこから成り立つ社会、本土からの復興支援。そして経済面では計れない豊かさが沖縄にある。タンザニアの開発を考えることは、これからの沖縄を考えることと大きくつながると思った。

豊見城市立上田小学校 池田 裕美

タンザニア訪問の中で私が感じたことは、富を持つ者と、持たざる者の格差が日本では考えられないくらい大きく開いているということ、そして、持っているものが主に外国人で、持たざるものが国民の大半を占めているという現状です。ダルエスサラーム中心地のきれいな建物が建ち並ぶ様子と、一歩郊外に出て見えた農村に住む人々の生活の様子は、非常にアンバランスな光景として印象深く、これらが国内における新たな“南北問題”なのだろうと捉えました。

宜野湾市立大山小学校 天願 直光

## 訪問国概要



### 1. 概要

面積	1万8,333km <sup>2</sup> (四国とほぼ同じ大きさ)
人口	85.4万人 (00年フィジー政府統計局)
首都	スバ (16.5万人、96年調査)
人種	フィジー系 (51.0%)、インド系 (44%)、その他 (5.0%) (98年調査)
言語	英語 (公用語) の他フィジー語、ヒンディー語を使用
宗教	フィジー系はほぼ100%キリスト教、インド系はヒンズー教、回教。全人口に占める割合はキリスト教52.9%、ヒンズー38.2%、回教7.8% (86年調査)

### 2. 経済 (単位：米ドル)

主要産業	観光、砂糖、衣料が三大産業
GDP <sup>*1</sup>	19億米ドル (02年、世銀)
一人当りGDP	2,308.6米ドル (02年、世銀)
経済成長率	4.1% (02年、世銀)
物価上昇率	4.0% (03年)
失業率	14.2% (01年フィジー統計局)
総貿易額	(1) 輸出 578.6百万米ドル (02年フィジー準備銀行) (2) 輸入 946.0百万米ドル (02年フィジー準備銀行)
主要貿易品目	(1) 輸出 衣類、砂糖、金、魚類、木材チップ (2) 輸入 機械・輸送機器、工業製品、食料品、雑貨品、鉱物燃料、化学品
貿易相手国	(1) 輸出 1. 豪 2. 米 3. 英 4. 日本 5. NZ (2) 輸入 1. 豪 2. NZ 3. 米 4. シンガポール 5. 日本
通貨	フィジー・ドル (F\$)
為替レート	フィジー・ドル=0.4843米ドル (02年平均)
経済関係	2000年5月のクーデター事件がフィジー経済に与えた影響は甚大で、特に観光産業、衣料産業は直接深刻な被害を被り、99年のGDP成長率は8%以上を記録したのに対し、00年は-2.8% (当初は-8.2%と予想) と大きく落ち込んだ。しかしながら、01年の総選挙後、政情が安定化するに従い徐々に国際社会よりの信頼が回復し、経済活動も落ち着きを取り戻しはじめ、同年の経済成長率は4.3%、02年は4.4%の成長を記録した。特に、観光産業の回復は著しく (00年29万人が02年は約40万人)、観光産業がフィジーの経済発展の牽引となると見られている。また、ホテル等の多くの大型建築プロジェクトも着工しており、建築業界も好調である。なお、長年にわたりフィジー経済を支えてきた砂糖産業は、工場の放漫経営、輸送手段及び機械の老朽化等の問題に加え、フィジー系土地所有者とインド系農民との間の農地リース問題が政治問題化するなど、解決すべき問題が山積みとなっており、多額の累積赤字を抱え、出口の見えない深刻な状況に陥っており、ガラセ首相自らが政治生命を賭け砂糖産業再生に乗り出しているが、世界の砂糖市況の悪化もあり、今後の成り行きが注目されている。

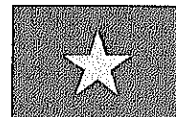
### 3. 経済協力

我が国の援助実績	(2002年度)		(2002までの累計)
	(1) 有償資金協力	なし	22.87億円
(2) 無償資金協力	3.81億円	134.59億円	
(3) 技術協力	9.56億円	175.74億円	
DAC内主要援助国 <sup>*2</sup> (02年、単位：百万米ドル)	(1) 日本 (18.7)、(2) 豪州 (8.6)、(3) NZ (2.8)		

※1 GDP…Gross Domestic Product 国内総生産 一定期間内に国内で生み出された付加価値の総額。

※2 DAC…Development Assistance Committee 開発援助委員会

OECD加盟国 (29カ国) 中の22カ国と、欧州委員会の合計23メンバーからなる対途上国開発援助のための委員会。



## 1. 概要

面積	32万9,241km <sup>2</sup>
人口	約7,971万人 (2002年) 人口増加率：1.31% (2002年)
首都	ハノイ
人種	キン族 (越人) 90%、約60の少数民族
言語	ベトナム語
宗教	仏教 (80%)、カトリック、カオダイ教他

## 2. 経済 (単位：米ドル)

主要産業	農林水産業、鉱業
GDP <sup>*1</sup>	301億米ドル (2000年IMF資料)
一人当りGDP	388米ドル (2000年IMF資料)
経済成長率	7% (2002年)
物価上昇率	4.0% (2002年)
失業率	6.01% (都市部のみ、2002年政府公表)
総貿易額 (2002年)	(1) 輸出 165.3億ドル (2) 輸入 193億ドル
主要貿易品目 (2002年)	(1) 輸出 原油、繊維、水産物 (2) 輸入 機械、繊維品、石油製品
貿易相手国 (2002年)	(1) 輸出 日本、米国、中国 (2) 輸入 台湾、シンガポール、日本
通貨	ドン (Dong)
為替レート	1ドル≒15,600ドン (2004年2月)
経済関係	(1) 89年頃よりドイモイの成果が上がり始め、95～96年には9%台の高い経済成長を続けた。しかし、97年に入り、成長率の鈍化等の傾向が表面化したのに加え、アジア経済危機の影響を受け、外国直接投資が急減し、また、輸出面でも周辺諸国との競争激化に晒され、99年の成長率は4.8%に低下した。 (2) 2000年の成長率は6.7%、2001年は6.8%、2002年は7.0%を記録し、2003年も7%台の成長率を達成する見込み。しかし、慢性的貿易赤字、未成熟な投資環境等、懸念材料も依然残っている。

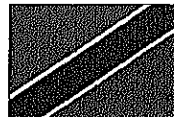
## 3. 経済協力

我が国の援助実績 (2002年度)	(1) 有償資金協力 約793億円 (2) 無償資金協力 約52億円 (3) 技術協力 約67億円
DAC内主要援助国 <sup>*2</sup>	(1) 日 (2) 仏 (3) 独 (4) デンマーク

※1 GDP…Gross Domestic Product 国内総生産 一定期間内に国内で生み出された付加価値の総額。

※2 DAC…Development Assistance Committee 開発援助委員会

OECD加盟国 (29カ国) 中の22カ国と、欧州委員会の合計23メンバーからなる対途上国開発援助のための委員会。



## 1. 概要

面積	94.5万km <sup>2</sup> (日本の約2.5倍)
人口	3,520万人 (2002年)
首都	ダルエスサラーム
人種	スクマ族、マコンデ族、チャガ族、ハヤ族等約130部族
言語	スワヒリ語 (国語)、英語 (公用語)
宗教	イスラム教 (31%)、キリスト教 (25%)、伝統宗教 (44%)

## 2. 経済 (単位:米ドル)

主要産業	農業 (GDPの約50%を占める)、メイズ、キャッサバ、米、豆類、コーヒー、綿花等 (また、規模は小さいが、鉱業では金やダイヤモンド生産、工業ではサイザル麻・タバコ等、農産物加工がある。観光業も年々伸びており、有望視されている。) (ザンジバル) コブラ、やし油
GNI <sup>*1</sup>	96億米ドル (2002年:世銀)
一人当たりGNP	280米ドル (2002年:世銀)
経済成長率	5.8% (2002年:世銀)
物価上昇率	4.2% (2002年:世銀)
失業率	不明
総貿易額 (2002年)	(1) 輸出 882.7 百万ドル (2) 輸入 1,656.3百万ドル
主要貿易品目 (2002年)	(1) 輸出 鉱物、製造物、タバコ、カシューナッツ、コーヒー (2) 輸入 消費財、産業資材、一般機械、輸送機械、石油
貿易相手国 (2002年)	(1) 輸出 英、仏、日本、印、蘭、ケニア (2) 輸入 南ア、日本、印、露、UAE
通貨	タンザニア・シリング (T.shs)
為替レート	1ドル=1,049 (2003年9月)
経済関係	社会主義経済政策を推進していたが、石油危機や対ウガンダ戦争、旱魃の影響により、80年代に入り経済は危機的状態になり、86年以降、世銀・IMFの支援を得て経済改革に着手した。GDP成長率は2001年度5.7%、2002年度5.8%と順調であり、一人当たりGNPも97年の210ドルから99年250ドル、2002年280ドルと順調に推移している。財政は歳出超過であるが、PRSP <sup>**</sup> の策定を終え、ドナーの協力を得つつ、その実施に取り組んでいる。

## 3. 経済協力

我が国の援助実績 <sup>**3</sup>	(1) 有償資金協力 (02年度まで、ENベース) 433.83億円 (2) 無償資金協力 (02年度まで、ENベース) 1,227.37億円 (3) 技術協力実績 (02年度まで、JICAベース) 516.98億円
DAC内主要援助国 (01年、単位:百万ドル)	(1) 英 (290.1%) (2) 日 (260.4) (3) 蘭 (75.1) (4) デンマーク (66.6) (5) 独 (48.2)

\*1 GNI …Gross National Income 国民総所得

国民が受取った実質的な所得をGNP (国民総生産) より的確に表す指標。名目的にはGNPと同じ。

\*2 PRSP …Poverty Reduction Strategy Paper 貧困削減戦略書

債務削減を希望する国が世銀やIMFの支援のもとで作成する貧困削減のための経済改革プログラム。

\*3 ENベース …交換公文 (Exchange of Notes) ベース

## 開発教育関係団体および教材紹介

開発教育や開発問題について、もっと詳しく知りたい方々のために開発教育を実施している団体や授業で使える教材・書籍をリストアップしてみました。JICA刊行のものについては、最寄のJICA国内機関にお問合せ下さい。

開発教育関係団体 ①セミナー開催 ②講師の派遣 ③資料の収集・開発・提供 ④スタディーツアー ⑤機関誌の刊行 ⑥その他

### 全国国際教育研究協議会

事務局：東京都立蒲田高等学校  
〒144-0053  
東京都大田区蒲田本町1-1-30  
TEL 03(3737)1331  
FAX 03(3737)1714  
URL <http://www.kokusaiken.com/>  
①～⑥、⑥授業の中での開発教育の実践

### (特活)国際協力NGOセンター (JANIC)

〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
アパコビル5階  
TEL 03(5292)2911  
FAX 03(5292)2912  
e-mail [global-citizen@janic.org](mailto:global-citizen@janic.org)  
URL <http://www.janic.org/>  
①②③⑤、⑥NGO市民情報センター

### (特活)名古屋NGOセンター

〒450-0033  
愛知県名古屋市市中村区名駅南1-20-11  
NPOプラザなごや3階北室  
TEL 052(588)3680  
FAX 052(588)3680  
e-mail [info@nangoc.org](mailto:info@nangoc.org)  
日・月・祝日休み。開所時間 13:00～17:00  
訪問の場合は事前に要連絡。  
URL <http://www.nangoc.org/>  
①②③④⑤

### (特活)関西NGO協議会

〒530-0013  
大阪府大阪市北区茶屋町2-30  
TEL 06(6377)5144  
FAX 06(6377)5148  
e-mail [knc@ak.wakwak.com](mailto:knc@ak.wakwak.com)  
月～金および第2・第4土曜 13:00～18:00  
URL <http://park15.wakwak.com/~knc/>  
①②③④⑤、⑥関西NGO大学

### (特活)開発教育協会

〒112-0022  
東京都文京区小石川2-17-41  
富坂キリスト教センター2号館3階  
TEL 03(5844)3630  
FAX 03(3818)5940  
URL <http://www.dear.or.jp/>  
①②③⑤、⑥開発教育情報センター

### (特活)国際理解教育センター (ERIC)

〒114-0023  
東京都北区滝野川1-93-5  
コスモ西興鶴105  
TEL 03(5907)6064(テキスト係)  
03(5907)6054(研修係)  
FAX 03(5907)6095  
e-mail [eric-net@try-net.or.jp](mailto:eric-net@try-net.or.jp)  
月～金の10:00～18:00  
訪問の場合は事前に要連絡  
URL <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>  
①②③④⑤、⑥カリキュラム開発など

### (特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会

〒169-8611  
東京都新宿区西早稲田2-3-1  
早稲田華仕園内  
TEL 03(3202)7863  
FAX 03(3202)4593  
e-mail [info@shaplaneer.org](mailto:info@shaplaneer.org)  
火～土の10:00～18:00  
日曜、月曜、祝日休み。  
URL <http://www.shaplaneer.org/>  
①②③④⑤、⑥/バングラデシュ・ネパールの手工芸品輸入販売

### (特活)シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

〒160-0015  
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F  
TEL 03(5360)1233  
FAX 03(5360)1220  
e-mail [info@sva.or.jp](mailto:info@sva.or.jp)  
月～金の10:00～17:30 土、日、祝日休み  
訪問の場合は事前に要連絡  
URL <http://www.jca.apc.org/sva/>  
①②③④⑤、⑥

### (財)国際協力推進協会 (APIC)

〒112-0012  
東京都文京区大塚5-3-13  
小石川アーバンビル8F  
TEL 03(3947)2491  
FAX 03(3947)4491  
URL <http://www.apic.or.jp/plaza/>  
①②③、⑥国際協力プラザ

### (社)協力隊を育てる会

〒160-0013  
東京都新宿区麩岳15 日本青年館内  
TEL 03(3402)2153  
FAX 03(3402)3263  
e-mail [mail@sojocv.or.jp](mailto:mail@sojocv.or.jp)  
月～金の9:30～17:30  
URL <http://www.sojocv.or.jp/>  
①②③⑤、⑥小さなハートプロジェクト

### (社)青年海外協力協会

〒160-0013  
東京都渋谷区広尾4-2-24  
広尾青年海外協力隊訓練所内  
TEL 03(3406)9151  
FAX 03(3406)9160  
e-mail [info@joca.or.jp](mailto:info@joca.or.jp)  
月～金の9:30～17:30  
URL <http://www.joca.or.jp/>  
①②③⑤

### (財)日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

〒108-8607  
東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス  
TEL 03(5789)2013  
FAX 03(5789)2033  
URL <http://www.unicef.or.jp>  
①②③、⑥図書館

### (社)日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013  
東京都渋谷区恵比寿1-3-1  
朝日生命恵比寿ビル12階  
TEL 03(5424)1121  
FAX 03(5424)1126  
URL <http://www.unesco.or.jp/>  
①②③④⑤

## 開発教育教材

### コーヒーカップの向こう側 ～一杯のコーヒーから考える世界の貿易～(仮題)

冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,260  
発行：2005年春(予定)

身近なコーヒーを題材に、生産国の現状と世界の流通のしくみを理解し「いい貿易とは何か」を考えるシミュレーション教材。生産者が抱える様々な問題や「南」の国々の低開発に貿易がどう関わっているかに気づくことができる。最新のデータを入れ、使いやすとした改訂版。中学生以上向き。

### パーム油のはなし ～「地球にやさしい」って なんだろう?～



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,890 発行：2002年

ポテトチップスやチョコレート、アイスクリームなどの原料となる天然の植物性油脂として、日本では「地球にやさしい」とされているパーム油。生産国で起きている問題を知り、その問題が生まれる構造を理解し、私たちの消費生活を振り返ることで「地球にやさしい」とは何なのかを考えることをねらいとした教材。中学生以上向き。

### 「開発教育」ってなあに? 開発教育Q&A集[改訂版]



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,000 発行：2004年

開発教育とは何か、どのように実践するのかを分かりやすく紹介した入門書。「理論編」ではねらいや手法、歴史など、「実践編」では学校やNGO、自治体などでの実践例を紹介。

### つながれ開発教育 ～学校と地域のパートナーシップ事例集～



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,050 発行：2001年

学校と地域が様々な形でパートナーシップをとりながら開発教育や国際理解教育について取り組んでいる国内外の14の事例を紹介しつつ、パートナーシップのあり方や今後の課題を明らかにしている。

### もっと話そう! 平和のためにできること



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,260 発行：2003年

戦争や紛争の原因を掘り下げ、平和を築くために一人ひとりが出来ることを考えるためのアクティビティーを多数紹介。授業はもちろん、市民グループの集まりなど様々な場面で使える。

### ワークショップ版 世界がもし100人の 村だったら



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,200 発行：2003年

ベストセラーになった「世界がもし100人の村だったら」(マガジンハウス刊 池田香代子再話)の参加型学習教材。「100人村」のメッセージに込められた人口、教育、富の分配など世界の格差と多様性を考えるアクティビティーを掲載。単に「日本に生まれてよかった」という感想に留まらず一歩理解を進める工夫がなされている。

### グローバル・エクスプレス 1-5号



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：1号¥1,050 2-5号¥840  
発行：2004年

時事問題を教室で学ぶための教材。各号ごとのテーマに沿って数種類の授業展開例とワークシートが掲載されている。メディアで流れる情報を自ら深く分析し、考える力や「南」で起きていることと私たちの日常生活を結びつけてニュースを読むグローバルな視点を養うことを目的としている。第1号「ニュースに耳を傾ける(基本編)」、第2号「攻撃を超えて(9.11同時多発テロとイスラム)」、第3号「難民(難民、日本における難民政策)」、第4号「イラク(イラク問題、紛争の解決)」、第5号「紛争報道(イラク戦争と報道)」。

### 開発教育キーワード51



冊子 資料

問合せ先：開発教育協会  
TEL 03 (5844) 3630  
定価：¥1,575 発行：2002年

開発問題・開発教育・国際理解に関する基本用語を明確にし、それぞれの関連性を整理した用語集。

**新・貿易ゲーム**  
～経済のグローバル化を  
考える～



冊子  
有料

問い合わせ先：開発教育協会  
TEL 03(5844)3630  
定価：¥840 発行：2001年

「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考えることを目的としたシミュレーションゲーム。

**参加型学習で世界を  
感じる—開発教育実践  
ハンドブック**



冊子  
有料

問い合わせ先：開発教育協会  
TEL 03(5844)3630  
定価：¥2,100 発行：2003年

この一冊で開発教育の手法と学習プログラムとが学べる実践ハンドブック。参加型学習の基本的な手法（アクティビティ）や事例を紹介するほか、開発教育を「総合的な学習」の時間などで扱うための学習プログラムと教材を12のテーマでまとめている。大好評の既刊「いきいき開発教育」「わくわく開発教育」を一冊にまとめたもの。

**持続可能な開発のため  
の学び 別冊【開発教育】**



冊子  
有料

問い合わせ先：開発教育協会  
TEL 03(5844)3630  
定価：¥1,260 発行：2003年

「持続可能な開発のための教育」とはどのような教育なのか、持続可能な社会をつくるためにどのような実践が求められているのかを考察するとともに、地域での学びの実践の事例も紹介。2005年から始まる「国連・持続可能な開発のための教育の10年」に向け、理論と実践をまとめたハンドブック。

**一教室と世界をつなぐ—  
開発教育教材カタログ  
2003**



冊子  
有料

問い合わせ先：開発教育協会  
TEL 03(5844)3630  
定価：¥1,575 発行：2003年

1995年以降に制作・発行された国内外の開発教育教材約150点を収録した教材カタログ。開発や環境、国際理解、国際協力などのテーマを扱うグローバルな視点を持った教材を収集し、体系的に整理している。

**地球の仲間たち**



CD-ROM  
有料

製作：開発教育を考える会  
販売：有限会社INT  
TEL 03(5725)5688  
FAX 03(5725)5689  
URT <http://www.nakamatachi.jp/chikyuu/> (体験サイト)

定価：  
シングルライセンス(個人用) ¥5,700  
5台ライセンス(授業用) ¥27,500  
22台ライセンス(授業用) ¥120,800  
学校無制限ライセンス(授業用) ¥180,800

世界19カ国、20人の子どもたちの生活やものの考え方などを500枚を超える写真と解説文で紹介。日常生活のほか、将来の夢や直筆メッセージも含まれており、クイズに参加しながら子ども達の生の声が伝わるように工夫されている。また、子ども達の暮らしを題材にした英語の質問も音声(英文・日本語訳つき)で組み込まれていて、英語の授業にも対応可能。

掲載国：ベルギー、ヨルダン、ネパール、フィリピン、エチオピア、ガーナ、USA、ホンジュラス、エクアドル、パナマ、パプア・ニューギニア

**「地球の仲間たち」  
フォトランゲージ版**



写真  
別売

製作：開発教育を考える会  
FAX 046(255)1867  
e-mail: [chikyuu@group.email.ne.jp](mailto:chikyuu@group.email.ne.jp)  
定価：¥800(テキスト別売¥500)

世界の子どもの写真5枚(A4版)に加え、写真解説、子どもメッセージカード、読み札カードがセットになっている。全25カ国(価格は1カ国あたり)。同じ地球の仲間たちの生活を知ってもらうことをねらいとしたフォトランゲージ教材。別売りのテキストには教材の使い方と授業に役立つワークシートを掲載。

**地球家族  
世界30か国のふつうの暮らし**



書籍  
有料

写真提供 (株)ユニフォトプレス  
問合せ先：TOTO出版  
TEL 03(3402)7138  
定価：¥1,893+税 発行：1994年

世界30か国の平均的な家族の持ち物と暮らしのレポート。家族の持ち物を全て自宅前に並べた家族の写真からその国に暮らす人の普通の生活が見えてくる。各国の家族の写真には詳細な一家の持ち物や家族のプロフィールやインタビューが掲載され、読み物としても興が深い。

続 地球家族  
世界20か国の女性のくらし



書籍  
有様

写真提供 (株)ユニフォトプレス

問合せ先: TOTO出版  
TEL 03 (3402) 7138  
定価: ¥2,476+税 発行: 1997年

地球家族-世界30か国のふつうの暮らしの続編。世界20か国の女性の日常(家事、子ども、夫、希望、夢、他)についてインタビュー。前作同様、豊富な写真と女性のプロフィールも掲載されている。単なる暮らしの紹介のみならず、生い立ち、悩みを通して一人の人間の姿が見えてくる。巻末には、各国の基本データが掲載されており登場人物の暮らす国の状況も同時に知ることが出来る。

国際理解  
重要用語300の基礎知識



書籍  
有様

問合せ先: 明治図書  
TEL 03 (3946) 3151  
定価: ¥2,660+税 発行: 2000年

国際理解教育を広い定義にとらえ、かなり幅広い分野から重要語彙を選び解説した用語集。国際理解教育、平和教育、環境教育、開発教育など12項目に分け、関係の深い用語を項目ごとに掲載するなど工夫されている。

世界の子どもたち  
-NGOの現場から-



書籍  
有様

問合せ先: 明石書店  
TEL 03 (5818) 1171  
定価: ¥1,000+税 発行: 2002年

世界6カ国で厳しい状況にある子どもたちを題材としたアクティビティー集。各国ごとの情報、子どもにまつわる物語とともに参加型学習の例が掲載されている。子供たちが直面している厳しい状況のみならず、豊かな文化やエネルギーにも目が向くように工夫されている。小学生以上向き。

多文化子どもの歌集  
Ciranda, Cirandinha  
-輪になろう-



CD-ROM  
冊子  
有様

問合せ先: (特活)多文化共生センター  
TEL 06 (4395) 1377  
定価: CD ¥2,500  
ブックレット(歌詞) ¥800  
CD-ブックレットセット ¥3,000

中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語の童謡(各3曲)を集めたCDとブックレット。CDは歌のみ(歌詞カードなし)。曲はいずれも各言語圏でよく歌われている簡単なもの。ブックレットには歌詞と日本語訳の他、歌に合わせて遊びや踊りがあるものについては、その説明もついている。歌詞にはカタカナで読み仮名が振ってあるので子どもにも読みやすい。音楽の授業は勿論、総合的な学習の時間にも使える。小学校向き。

協力隊体験を伝えよう2  
~生きる力を育てるワークショップ集~



冊子  
有様

問合せ先: 青年海外協力協会  
TEL 03 (3406) 9151  
定価: ¥1,000  
発行: 2002年

青年海外協力隊員経験者による授業の実践報告集。派遣国で経験した現地の文化、生活、人々のエネルギーをとおして日本の子どもたちに「生きる力」を伝える実践例が掲載されている。

ODA開発教育キット  
世界の子どもの笑顔のために



貸出可  
ビデオ  
有様

問合せ先: 国際協力推進協会  
TEL 03 (3947) 0481

社会・総合的な学習の時間に対応したビデオ教材。小学校6年生向け。ベトナム、カンボジアを例としたODAが解説されている。

国際理解教育



書籍  
有様

問合せ先: 清水書院  
TEL 03 (3260) 5261  
定価: ¥1,800+税 発行: 1999年

相互理解、異文化理解、多様性、意志伝達、国際協力、自然環境などについて「総合的な学習の時間」で実際に行なわれた国際理解についての授業の実践事例集。

地球市民教育のすすめかた  
ワールド・スタディーズ・ワークブック



書籍  
有様

問合せ先: 明石書店  
TEL 03 (5818) 1171  
定価: ¥2,500+税 発行: 1997年

参加型学習の実践事例集。「森林環境」「性別にまつわる問題」「食べ物」などテーマごとにアクティビティーを紹介。また、地球市民教育を学校で行う際の評価の方法も記載されている。

国際協力用語集 第3版



書籍  
有様

問合せ先: 国際開発ジャーナル社  
TEL 03 (3584) 2191  
定価: ¥3,000+税

国際協力に携わる人から初心者まで幅広く知識を得ることができる用語辞典(約1,000語を収録)。

地球買いモノ白書



書籍  
有様

問合せ先: コモンズ  
TEL 03 (5386) 8972  
定価: ¥1,300+税 発行: 2003年

身近な商品は、どこで作られ、どうやって私たちの生活にやってくるのか。モノを作る原料を探ると、世界の環境や生産者の境遇が見えてくる。消費社会に暮らす私達の生活を見つめ直すきっかけにもなる。総合学習に最適な一冊。

参考資料



**国際理解ハンドブック  
中国と出会う**



資料  
書籍

問合せ先: 国土社  
TEL 03(5348)3710  
定価: ¥1,600 + 税 発行: 2000年  
中国語で話して歌って、作って遊ぶ。作って食べたり、物語を読む。中国の文化を体験できる手引書。国際理解の入り口として最適。中国理解のための基本データや北京の小学生の一日、在日中国人の物語も掲載。

**国際理解ハンドブック  
フィリピンと出会う**



資料  
書籍

問合せ先: 国土社  
TEL 03(5348)3710  
定価: ¥1,600 + 税 発行: 2002年  
フィリピンの料理、遊び、歌を楽しいイラストと文章で紹介。フィリピンと日本の関わりや在日フィリピン人の現状など読み物としても充実している。

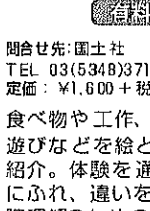
**国際協力ガイド2006**



資料  
冊子

問合せ先: 国際開発ジャーナル社  
TEL 03(3584)2191  
定価: ¥1,200 + 税  
学生でもすぐに取り組めるボランティア情報が満載。進学にも役立つ国際協力の情報を集めたガイドブック

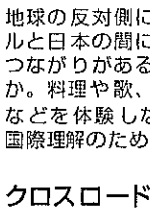
**国際理解ハンドブック  
韓国・朝鮮と出会う**



資料  
書籍

問合せ先: 国土社  
TEL 03(5348)3710  
定価: ¥1,600 + 税 発行: 1999年  
食べ物や工作、言葉・音楽・遊びなどを絵と文で楽しく紹介。体験を通して異文化にふれ、違いを認め合う国際理解のための本。

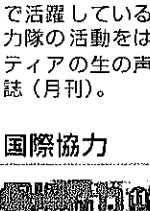
**国際理解ハンドブック  
ブラジルと出会う**



資料  
書籍

問合せ先: 国土社  
TEL 03(5348)3710  
定価: ¥1,600 + 税 発行: 2000年  
地球の反対側にあるブラジルと日本の間には、どんなつながりがあるのでしょうか。料理や歌、言葉や遊びなどを体験しながら学ぶ、国際理解のための本。

**クロスロード**



資料  
定期  
刊行物

問合せ先: 協力隊を育てる会  
TEL 03(3402)2153  
定価: ¥310  
「顔の見える援助」の最前線で活躍している青年海外協力隊の活動をはじめボランティアの生の声を伝える雑誌(月刊)。

**国際協力**



資料  
定期  
刊行物

問合せ先: 国際開発ジャーナル社  
TEL 03(3584)2191  
定価: ¥6,000(年間購読)  
途上国の現状やJICA事業に関する様々な情報を取り扱ったJICAの月間広報誌。

**JICAフロンティア**



資料  
定期  
刊行物

問合せ先: 国際協力出版会  
TEL 03(3372)6771  
定価: ¥8,000(年間購読)  
JICA事業を幅広く紹介している広報誌。国内での国際協力活動紹介など掲載。読みやすく国際協力の現状を解説。

**国際協力プラザ**

以下のページからアクセス・閲覧可能  
<http://www.apic.or.jp/plaza/>  
問合せ先: 国際協力プラザ事務局  
(財)国際協力推進協会内  
TEL 03(3947)0491  
政府開発援助(ODA)を中心とした国際協力に関する総合的な月間情報誌。

**大きな地球のテーブルで**



冊子  
資料

問合せ先: (社)国際食糧農業協会(FAO協会)  
TEL 03(3297)5621  
定価: ¥525  
国際協力を食糧問題から解説した一冊。世界でどのくらいの人々が飢えているのか、開発途上国ではなぜ食糧が不足するのか、世界が食糧不足になったら日本はどうかなどを項目別に判りやすく解説。世界と私たちの生活との関連を考えるきっかけとして各項目ごとに課題が設定されており、この一冊で食糧問題をあらゆる角度から学べる構成になっている。中学～高校向き。

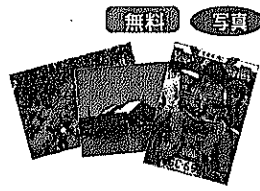
**アリンゴと日本のママ**



資料  
冊子

問い合わせ先: 国際協力推進協会  
TEL 03(3947)0491  
定価: ¥945  
アフリカでの国際協力の例をモデルに、現地の人々と日本の女性の心の交流を描いたマンガ。子供たちが国際協力に興味を持つきっかけ作りに適している。

**JICA フォトラングージ  
キット**



無料  
写真

問合せ先: JICA 国内機関 P89参照  
世界7カ国の風景、日常生活、子どもたちの写真(5枚1セット)で構成された開発教育教材。授業で使えるアクティビティー集も付いていて、直ぐに授業に活用できる。

**JICA INFO-KIT  
学校に行きたい!**



無料  
冊子

問合せ先: JICA 国内機関 P89参照  
豊富な写真と分かりやすい言葉で小学生向けの小冊子。国際協力に興味をもってもらう為の導入として最適。

教師海外研修バックナンバーの紹介



無料 冊子

問合せ先：JICA国内機関 P89参照  
 本研修に参加した教師の実践集を収めた教材集のバックナンバーです。詳しくは最寄の各国機関へお問合せ下さい。

関連教育教材

JOCAワールド・ボックス

有料貸出 物品

問合せ先：青年海外協力協会  
 貸出料金：¥3,000×ボックス数（送料別途）  
 衣類は¥2,000×点数（送料別途）

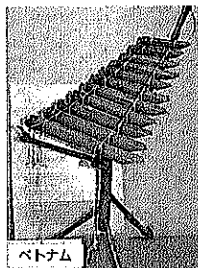
様々な国の日用品、写真、民族衣装、教科書などを実際に手にとって体験したくても、途上国の品物を手に入れるのは難しいのが現状です。「JOCAワールド・ボックス」は国別、テーマ別に民芸品や生活用品等を収集し説明書をつけた途上国理解の為に教材です。インドネシア、タンザニア、中国、メキシコなど世界29カ国のBOXがあります。詳細はHPから。http://www.joca.or.jp

物品の例



ポリビア

・マンタ（ショール）やポンジェーラ（スカート）などの普段着が納められています。



ベトナム

・ダン・トゥルンと呼ばれるミニチュアの竹もっさんです。分解して持ち運びできます。

国際理解教育教材 フィリピン・ボックス



貸出料金：¥3,000  
 民族衣装や生活用品など40点、写真60枚、解説や授業案などの資料。アジアの国々や国際協力などの学習の導入として、またゲストの小道具として利用できる。

フィリピン・竹の楽器ボックス



貸出料金：¥3,000  
 山岳少数民族の伝統的な竹楽器6種、写真35枚、演奏方法ビデオ。

戦争と女性を考えるワークショップ・キット



製作：フィリピン元「慰安婦」裁判支援ネット・三多摩  
 貸出料金：¥3,000  
 世界各地で現在も続く戦争・紛争下での性暴力や平和についてジェンダーの視点に立った話し合いに。

以上3点の問合せ先：ピナツボ復興むさしのネット

TEL 0422 (34)5498  
 FAX 0422 (32)9372  
 E-mail hachinoko@green.livadoor.com  
 URL: http://hachinoko.id.infoseek.co.jp

参考資料

## JICAはこんなこともしています

### ●教師海外研修

国際理解教育および開発教育に興味のある学校の先生を対象に、開発途上国で研修をおこない、今後の授業に役立ててもらうことを目的としたプログラムです。帰国後、研修で得られた経験をもとに、それぞれの教育現場において国際理解・開発教育に関する授業を實踐し、その結果を授業実践報告書として公開します。本研修は、お住まいの地域を担当するJICA国内機関で研修を実施しておりますので、直接ご相談ください。

### ●国際協力中学生・高校生・大学生エッセイコンテスト

全国の中学生・高校生・大学生等を対象に、開発途上国の現状について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、自分たちひとりひとりがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として、国際協力をテーマにしたエッセイコンテストを実施しています。中学生・高校生の上位入賞者には、JICAが協力している開発途上国への研修旅行がプレゼントされます。大学生の上位入賞者には、欧州や東南アジアへの航空券がプレゼントされます。また、そのほかにも各種の賞を用意しています。

### ●国際協力実体験プログラム

JICA国内機関では、中学生・高校生や大学生を対象に研修員との交流、帰国した専門家や青年海外協力隊OB・OGによる講義やワークショップを行い国際協力について自ら考える機会を提供しています。詳細はお住まいの地域を担当するJICA国内機関へお問合せ下さい。

### ●開発教育指導者研修

主に学校で「総合的な学習の時間」を担当されている先生等を対象に、開発教育の担い手の育成を目的とした開

発教育指導者研修を実施しています。研修では、実際に参加型のワークショップを体験しながら、開発教育の手法や簡単な教材作成法等をわかりやすく紹介しています。本研修は、お住まいの地域を担当するJICA国内機関で実施しておりますので、直接ご相談ください。

### ●JICA国際協力出前講座（旧サーモンキャンペーン）

JICA職員、帰国専門家、青年海外協力隊OB・OG、来日中の研修員を全国各地の学校や地方自治体、国際交流団体、NGO講座などへ講師として派遣します。講師は自らの体験を元に、写真やモノを用いて楽しく、分かりやすく講義します。総合的な学習の時間にもご活用下さい。講師の派遣は、お住まいの地域を担当するJICA国内機関で実施しておりますので、直接ご相談ください。

### ●ピース・トーク・マラソン2003-2007

「一人ひとりにできること。一人のためにできること。」をキャッチコピーに、「平和」と「国際協力」について考えるシンポジウムを、2003年8月から2007年3月まで3年半の時間をかけて、47都道府県で1回ずつ開催しています。シンポジウムのタイトルは、「ピース・トーク・マラソン2003-2007」。プログラムは、「いま世界で起きていること」と題した現状の紹介、著名人による平和や国際協力に関するトークや、その地域で活躍する有識者によるパネルディスカッションなど。「肩肘を張らずにまずはできることから始めてみませんか」というメッセージを込めて企画されています。シンポジウムと言っても、とてもリラックスした雰囲気での会です。皆さんもぜひ遊びに来て下さい。

詳しくはJICAホームページ（[www.jica.go.jp](http://www.jica.go.jp)）でご確認ください。

### ■ JICAはこんなことを募集しています

年 齢	20歳			30歳	40歳	50歳	60歳→	
	(中学校生活)	(高校生活)	(大学生生活)	社会人				
募集内容	中学生エッセイ コンテスト	高校生エッセイ コンテスト	大学生エッセイ コンテスト	青年海外協力隊（JOCV） （募集対象年齢20才～39才）		シニア海外ボランティア （募集対象年齢40才～69才）		
				日系社会青年ボランティア （募集対象年齢20才～39才）		日系社会シニアボランティア （募集対象年齢40才～69才）		
	(個別) 専門家 (登録可能年齢30才～59才)							
	ジュニア専門員 （募集対象年齢 25才～35才）		国際協力専門員 （募集対象年齢 35才～50才）					
	青年招へい合宿セミナー （参加者対象年齢20代後半～40才）							

■地域国際化協会一覧

都道府県	団体名	所在地	電話番号 (FAX番号)
北海道	(社)北方圏センター	〒060-0003 札幌市中央区北三条西7丁目 道庁別館12F	011-221-7840 (011-221-7845)
青森県	(財)青い森みらい創造財団国際交流課	〒030-0803 青森市安方1-1-32 水産ビル5F	017-735-2221 (017-735-2252)
岩手県	(財)岩手県国際交流協会	〒020-0025 盛岡市大沢川原2-4-20 国際交流プラザ内	019-654-8900 (019-654-8922)
宮城県	(財)宮城県国際交流協会	〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7F	022-275-5540 (022-272-5063)
秋田県	(財)秋田県国際交流協会	〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館6F	018-864-1181 (018-864-0160)
山形県	(財)山形県国際交流協会	〒990-8580 山形市城南町1-16-1 霞城セントラル2F	023-646-6267 (023-646-8860)
福島県	(財)福島県国際交流協会	〒960-8103 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2F	024-524-1315 (024-521-8308)
茨城県	(財)茨城県国際交流協会	〒310-0851 水戸市千波町後川745 県民文化センター分館2F	029-241-1611 (029-241-7611)
栃木県	(財)栃木県国際交流協会	〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内	028-621-0777 (028-621-0951)
群馬県	(財)群馬県国際交流協会	〒371-0026 前橋市大手町2-1-1 群馬会館3F	027-243-7271 (027-243-7275)
埼玉県	(財)埼玉県国際交流協会	〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 浦和地方庁舎内3階	048-833-2992 (048-833-3291)
千葉県	(財)ちば国際コンベンションビューロー	〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 W.B.G マリブイースト14階	043-297-0245 (043-297-2753)
東京都	(財)東京都国際交流委員会	〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1 都庁第一本庁舎26階南側 東京都生活文化局文化振興部事業推進課内	03-5320-7739 (03-5388-1327)
神奈川県	(財)神奈川県国際交流協会	〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 県立地球市民かながわプラザ1階	045-896-2626 (045-896-2945)
新潟県	(財)新潟県国際交流協会	〒950-0078 新潟市万代島5-1 万代島ビル2階	025-290-5650 (025-249-8122)
富山県	(財)とやま国際センター	〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階	076-444-2500 (076-444-2600)
石川県	(財)石川県国際交流協会	〒920-0853 金沢市本町1-5-3 リファール3階 石川県国際交流センター内	076-262-5931 (076-263-5931)
福井県	(財)福井県国際交流協会	〒910-0004 福井市宝永3-1-1	0776-28-8800 (0776-28-8818)
山梨県	(財)山梨県国際交流協会	〒400-0035 甲府市飯田2-2-3	055-228-5419 (055-228-5473)
長野県	(財)長野県国際交流推進協会	〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2 長野県庁本庁2階	026-235-7186 (026-235-4738)
岐阜県	(財)岐阜県国際交流センター	〒500-8384 岐阜市数田南5-14-53 岐阜県県民ふれあい会館6階	058-277-1013 (058-272-8839)
静岡県	(財)静岡県国際交流協会	〒422-8067 静岡市南町14-1 水の森ビル2F	054-202-3411 (054-202-0932)
愛知県	(財)愛知県国際交流協会	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 愛知県三の丸庁舎1,2階	052-961-8746 (052-961-8045)
三重県	(財)三重県国際交流財団	〒514-0009 津市羽所町700番地4 アスト津3階	059-223-5006 (059-223-5007)
滋賀県	(財)滋賀県国際協会	〒520-0801 大津市におの浜1-1-20ピアザ淡海2階	077-526-0931 (077-510-0601)
京都府	(財)京都府国際センター	〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下る 東塩小路町901番地京都駅ビル9階	075-342-5000 (075-342-5050)
大阪府	(財)大阪府国際交流財団	〒598-0048 泉佐野市りんくう往来北1 りんくうゲートタワービル17階	0724-60-2371 (0724-60-2377)
兵庫県	(財)兵庫県国際交流協会	〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1-5-1 国際健康開発センタービル2階	078-230-3260 (078-230-3280)
奈良県	(財)なら・シルクロード博記念 国際交流財団	〒630-8215 奈良市東向中町28 奈良近鉄駅ビル6階	0742-27-2436 (0742-27-2434)
和歌山県	(財)和歌山県国際交流協会	〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛8階	073-435-5240 (073-435-5243)

和歌山県

都道府県	団体名	所在地	電話番号 (FAX番号)
鳥取県	(財)鳥取県国際交流財団	〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110-5 鳥取空港国際会館1階	0857-31-5951 (0857-31-5952)
島根県	(財)しまね国際センター	〒690-0826 松江市学園南1-2-1 くにびきメッセ2階	0852-31-5056 (0852-31-5055)
岡山県	(財)岡山県国際交流協会	〒700-0026 岡山市春暁町2-2-1 岡山国際交流センター内	086-256-2917 (086-256-2226)
広島県	(財)ひろしま国際センター	〒730-0037 広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6階	082-541-3777 (082-243-2001)
山口県	(財)山口県国際交流協会	〒753-0811 山口市吉敷3185-1	083-925-7353 (083-920-4144)
徳島県	(財)徳島県国際交流協会	〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6階	088-656-3303 (088-652-0816)
香川県	(財)香川県国際交流協会	〒760-0017 高松市番町1-11-63 アイパル香川内	087-837-5901 (087-837-5903)
愛媛県	(財)愛媛県国際交流協会	〒790-0844 松山市道後一萬733	089-917-5678 (089-917-5670)
高知県	(財)高知県国際交流協会	〒780-0870 高知市本町4-1-37	088-875-0022 (088-875-4929)
福岡県	(財)福岡県国際交流センター	〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡3F	092-725-9204 (092-725-9205)
佐賀県	(財)佐賀県国際交流協会	〒840-8570 佐賀市城内1-1-59 佐賀県庁内	0952-25-7921 (0952-25-7417)
長崎県	(財)長崎県国際交流協会	〒850-0873 長崎市諏訪町5-20	095-823-3931 (095-832-2400)
熊本県	熊本国際協会	〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1 熊本県国際課内	096-385-4488 (096-385-4488)
大分県	(財)大分県国際交流センター	〒870-0047 大分市中島西3-1-7	097-538-5161 (097-538-5162)
宮崎県	(財)宮崎県国際交流協会	〒880-0804 宮崎市宮田町1-6 県庁8号館	0985-32-8457 (0985-32-8512)
鹿児島県	(財)鹿児島県国際交流協会	〒892-0816 鹿児島市山下町14-50 かごしま県民交流センター 1階	099-221-6624 (099-221-6643)
沖縄県	(財)沖縄県国際交流・人材育成財団	〒900-0034 沖縄県那覇市東町1-1 沖縄県那覇東町会館7階	098-941-6755 (098-941-6812)

札幌市	(財)札幌国際プラザ	〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNHビル3F	011-211-3670 (011-211-3673)
仙台市	(財)仙台国際交流協会	〒980-0856 仙台市青葉区菁葉山 仙台国際センター内	022-265-2211 (022-265-2485)
千葉市	(財)千葉市国際交流協会	〒260-0028 千葉市中央区新町1000 センシティタワー12階	043-238-8000 (043-238-8550)
横浜市	(財)横浜市国際交流協会	〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィック横浜 横浜国際協力センター5階	045-222-1171 (045-221-2210)
川崎市	(財)川崎市国際交流協会	〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町2-2 川崎市国際交流センター内	044-435-7000 (044-435-7010)
名古屋市	(財)名古屋国際センター	〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル4階	052-581-5691 (052-581-5629)
京都市	(財)京都市国際交流協会	〒606-8436 京都市左京区栗田口鳥居町2-1	075-752-3010 (075-752-3510)
大阪市	(財)大阪国際交流センター	〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6	06-6773-8989 (06-6773-8420)
神戸市	(財)神戸国際協力交流センター	〒651-0087 神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館20階	078-291-0641 (078-291-0691)
広島市	(財)広島平和文化センター	〒730-0811 広島市中区中島町1-5 国際村交流センター3階	082-242-8879 (082-242-7452)
北九州市	(財)北九州国際交流協会	〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター3階	093-662-0055 (093-662-6622)
福岡市	(財)福岡国際交流協会	〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館5階	092-733-5630 (092-733-5635)

お問い合わせ先 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国内機関一覧

**JICA札幌**

所管地区：道央・道北・道南  
〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25  
Tel：(011) 866-8333 (代)  
Fax：(011) 866-8382  
E-mail: jicasic@jica.go.jp

**JICA八王子**

所管地区：山梨県及び東京都23区以外の地域  
〒192-0043 東京都八王子市暁町2-31-2  
Tel：(0426) 26-5411 (代)  
Fax：(0426) 26-9954  
E-mail: jicahaic@jica.go.jp

**JICA帯広**

所管地区：道東  
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2  
Tel：(0155) 35-1210 (代)  
Fax：(0155) 36-2582  
E-mail: jicaobic@jica.go.jp

**JICA横浜**

所管地区：神奈川県  
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1  
Tel：(045) 663-3251 (代)  
Fax：(045) 663-3265  
E-mail: jicayic@jica.go.jp

**JICA 東北**

所管地区：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県  
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台  
第一生命タワービル15階  
Tel：(022) 223-5151 (代)  
Fax：(022) 227-3090  
E-mail: jicathic@jica.go.jp

**JICA駒ヶ根**

所管地区：長野県  
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
Tel：(0265) 82-6151 (代)  
Fax：(0265) 82-5336  
E-mail: kjvtpr@jica.go.jp

**JICA二本松**

所管地区：福島県  
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2  
Tel：(0243) 24-3200 (代)  
Fax：(0243) 24-3214  
E-mail: jicanjv@jica.go.jp

**JICA北陸**

所管地区：富山県・石川県・福井県  
〒920-0031 石川県金沢市広岡3-1-1  
金沢パークビル3F  
Tel：(076) 233-5931 (代)  
Fax：(076) 233-5959  
E-mail: jicahric@jica.go.jp

**JICA筑波**

所管地区：茨城県  
〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6  
Tel：(029) 838-1111 (代)  
Fax：(029) 838-1119  
E-mail: jicatbic@jica.go.jp

**JICA中部**

所管地区：静岡県・岐阜県・愛知県・三重県  
〒465-0094 愛知県名古屋市名東区亀の井2-73  
Tel：(052) 702-1391 (代)  
Fax：(052) 702-1397  
E-mail: jicacbic@jica.go.jp

**JICA東京**

所管地区：栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都  
23区及び新潟県  
〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5  
Tel：(03) 3485-7051 (代)  
Fax：(03) 3485-7904  
E-mail: jicatic@jica.go.jp

**JICA大阪**

所管地区：滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県  
〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1  
Tel：(072) 641-6900 (代)  
Fax：(072) 641-6910  
E-mail: jicaosic@jica.go.jp

## JICA兵庫

所管地区：兵庫県

〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

Tel：(078) 261-0341 (代)

Fax：(078) 261-0342

E-mail: jicahic@jica.go.jp

## JICA中国

所管地区：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県

〒739-0046広島県東広島市鏡山3-3-1

Tel：(082) 421-6300 (代)

Fax：(082) 420-8082

E-mail: jicacic@jica.go.jp

## JICA四国

所管地区：徳島県・香川県・愛媛県・高知県

〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1

百十四ビル13階

Tel：(087) 833-0901 (代)

Fax：(087) 837-0747

E-mail: jicaskic@jica.go.jp

## JICA九州

所管地区：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・  
宮崎県・鹿児島県

〒805-8505福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1

Tel：(093) 671-6311 (代)

Fax：(093) 663-1350

E-mail: jicakic@jica.go.jp

## JICA沖縄

所管地区：沖縄県

〒901-2552沖縄県浦添市字前田1143-1

Tel：(098) 876-6000 (代)

Fax：(098) 876-6014

E-mail: jicaaic@jica.go.jp

以上の最寄りの国内機関にお気軽にお問い合わせ下さい。

総合的な学習の時間・選択教科に役立つ国際理解教育の手引き  
**「大きな地球の木の下で」**  
平成15年度 小学校教師海外研修に参加して

---

平成16年12月発行

発行者 独立行政法人 国際協力機構

〒151-8558

東京都渋谷区代々木2丁目1番1号

新宿マインズタワー7階

TEL 03-5352-5628 FAX 03-5352-5018

URL <http://www.jica.go.jp/>

---



主催：独立行政法人国際協力機構

後援：外務省 文部科学省

都道府県教育委員会(北海道 福島県 茨城県 富山県 石川県 福井県 栃木県 群馬県 埼玉県  
千葉県 新潟県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府  
兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県  
高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県)  
政令指定都市教育委員会(札幌市 千葉市 名古屋市 京都市 大阪市 神戸市 広島市 福岡市  
北九州市)

